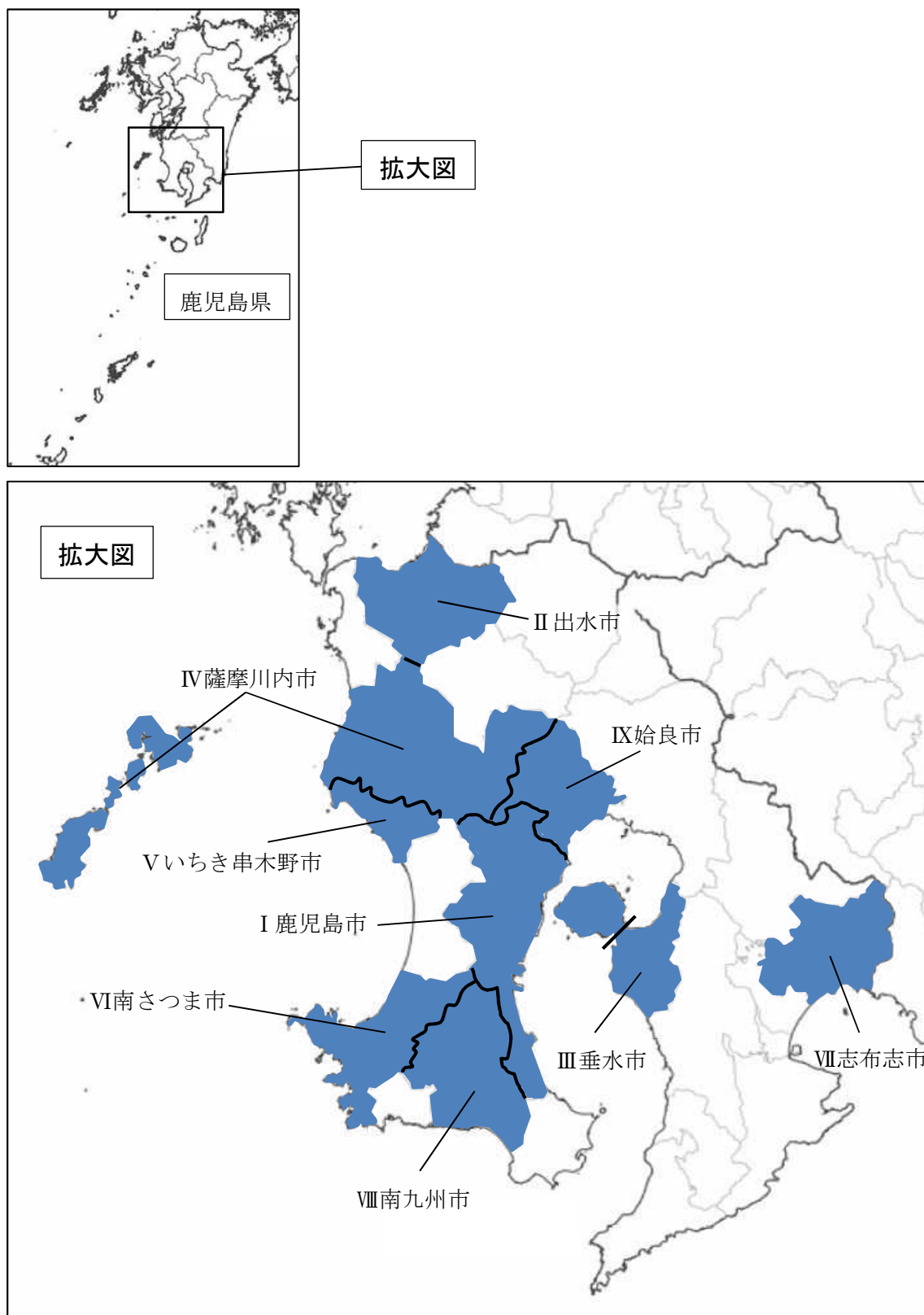


① 申請者	◎鹿児島県（鹿児島市，出水市，垂水市，薩摩川内市，いちき串木野市，南さつま市，志布志市，南九州市，姶良市）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	さつまのぶしがいきたまち ～ぶけやしきぐんふもとをあるく～		
薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地，鹿児島。そこには，本城の鹿児島城跡や，県内各地の山城跡の周辺に配置された麓と呼ばれる外城の武家屋敷群が数多く残っています。 麓は，防御に適した場所に作られ，門と玄関の間に生垣を配置する等，まるで城の中のように敵に備えた構造を持っていました。そこでは武士達が，心身を鍛え，農耕に従事し，平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。 鹿児島城跡や麓を歩けば，薩摩の武士達の往時の生き様が見えてきます。			
 いずみふもと いずみし 出水麓（出水市）  きよしきじょうあと さつませんたいし 清色城跡（薩摩川内市）  ちらんふもと みなみきゅうしゅうし 知覧麓（南九州市）			

※昨年度申請実績

平成30年度申請タイトル
明治維新の原動力・薩摩藩の武士達が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～
変更内容
・タイトルを短く，わかりやすく変更した。 ・ストーリー及び構成文化財に，外城に対する本城である鹿児島城跡を追加し，ストーリーを理解しやすいように変更した。 ・観光面での活用や民間を巻き込んだ取組が実現できるよう実施体制を充実した。 ・地域の活性化を図るための手法を具体的に記載するとともに，関連する事業を充実した。

市町村の位置図



構成文化財の位置

I 鹿児島市（鹿児島城周辺地区）



拡大図



構成文化財の位置

I 鹿児島市（喜入旧麓地区）



拡大図

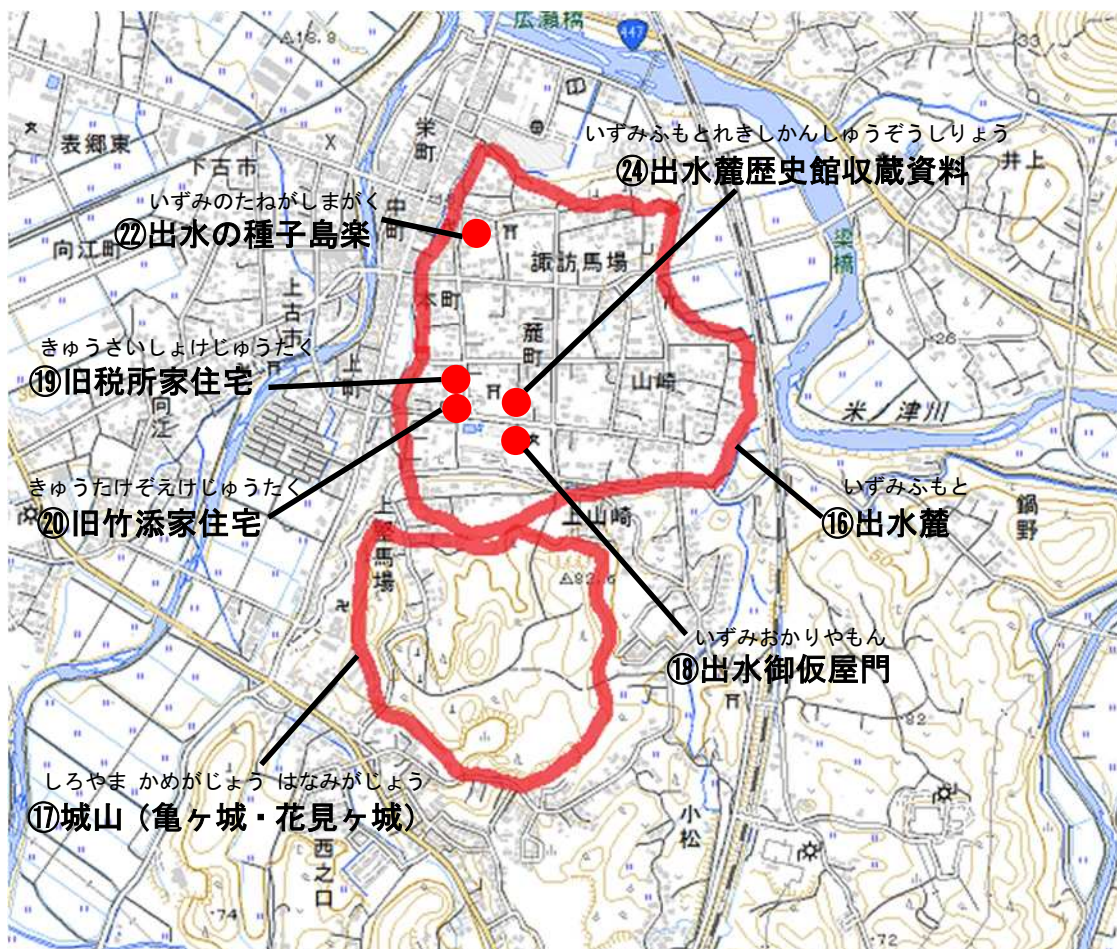


構成文化財の位置図

Ⅱ 出水市



拡大図



構成文化財の位置図

Ⅲ 垂水市



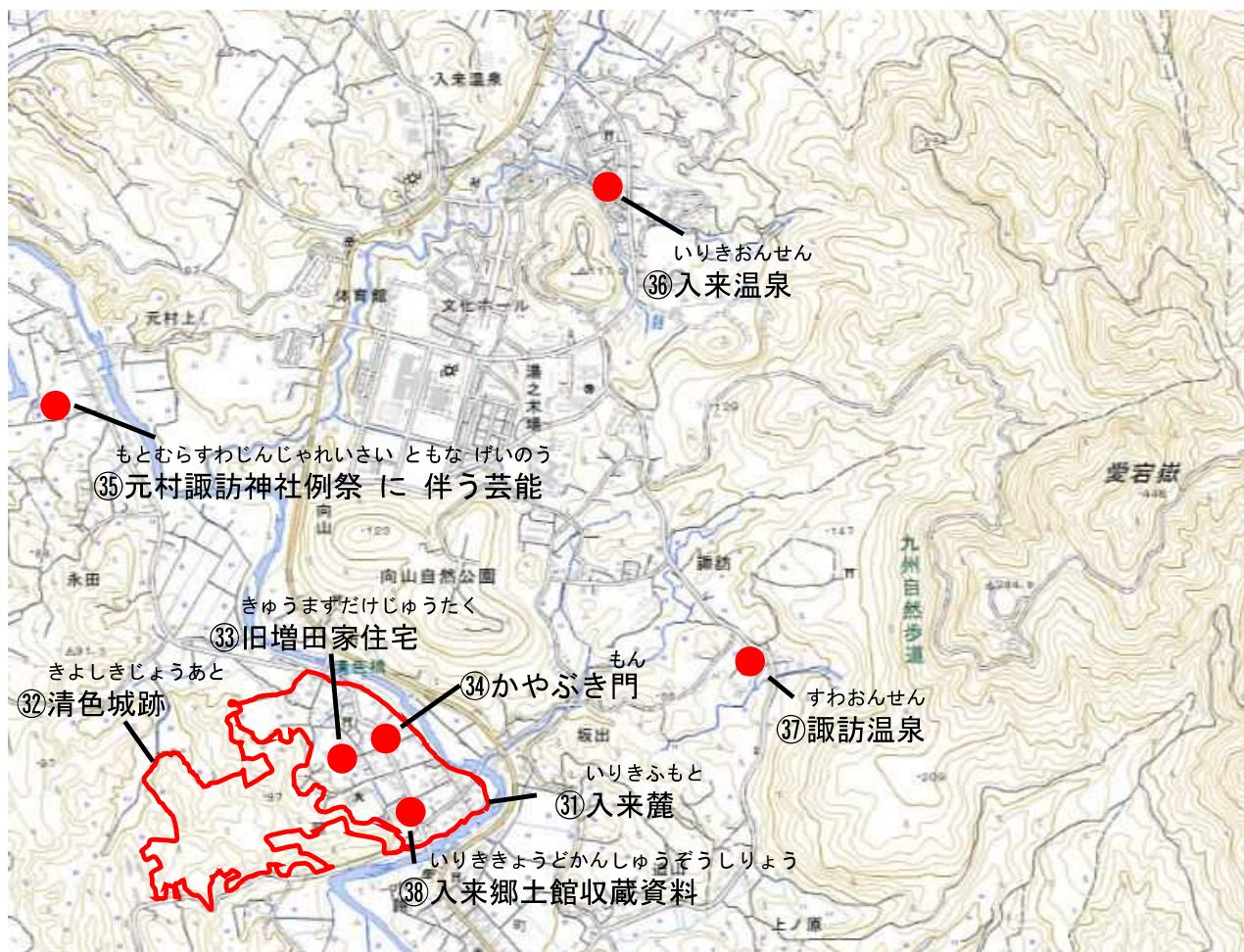
拡大図



構成文化財の位置図
Ⅳ 薩摩川内市



拡大図 1



拡大図 2



拡大図 3

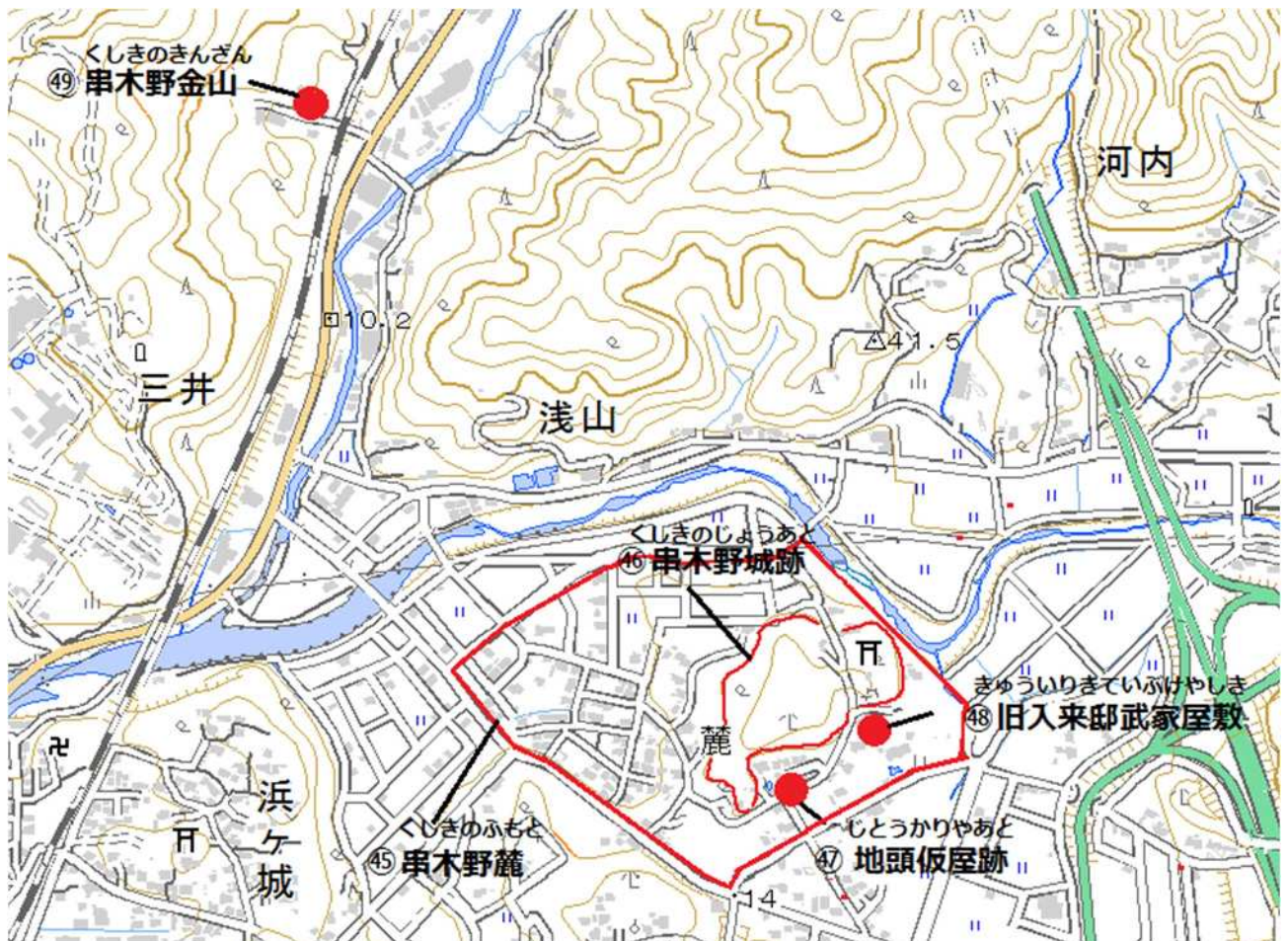


構成文化財の位置図

V いちき串木野市



拡大図



構成文化財の位置図

VI 南さつま市



拡大図



構成文化財の位置図

VII 志布志市



拡大図



構成文化財の位置図

VIII 南九州市



拡大図



構成文化財の位置図

区 始良市



拡大図 1



拡大図 2



ストーリー

【鹿児島県内の各地に残る山城跡と武家屋敷群】

薩摩の武士というと、勇猛果敢なことで知られており、そのふるさとである鹿児島は、本城の鹿児島城や、中世以来の山城の跡と、その周辺に配置された外城の武家屋敷群とが江戸時代を通じて残り、今も県内各地に数多く残っている全国で唯一の地域です。

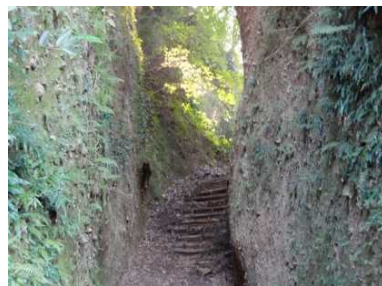


かごしまじょうほんまるあと
鹿児島城 本丸跡

鹿児島の県土は、遠い昔に今の鹿児島湾から噴出した火砕流が堆積した、数10mから時には100mを超える厚さのシラスの台地から成っています。このため広い平野部は少なく、薩摩藩内の山城は、このシラス台地を利用して、その端に当たる場所に築かれています。

山城は戦国時代までは日本中にありましたが、江戸幕府の命令で破壊され、一つの藩に一つの城という制度に変わりました。ところが薩摩藩では、破壊すると田畑に土が流れてくるので破壊できないと幕府に言い訳し、山城を破壊しなかったため、15mを超えるような空堀に囲まれて、武士達が戦時に籠る曲輪などがいくつも集まっている山城の跡が、県内各地に数多く残っています。実際は、いざという時の拠点として残していたとも言われ、山城では、鉄砲や弓などの軍事訓練が行われることもありました。

中世以来の守護大名であり、戦国時代末には九州全土を平定する勢いだった薩摩の島津氏は、豊臣秀吉の九州平定で敗れ、領地を大幅に削減されましたが、武士の数は減らしませんでした。このため、薩摩藩は他の藩より武士の割合が高くなり、全人口の4分の1程度を武士が占めていました。そこで、他の藩のように、本城である鹿児島城の城下に全ての武士を集住させることができず、独自の外城制度として、各地の山城の周辺に「麓」（武家屋敷群）をつくり、数十人から時には数千人を配置することにしました。こうして、各地に武士団の集住地が存在する、薩摩藩独自の制度が生まれたのです。麓は、シラス台地の端にある山城と近くを流れる川に挟まれた、防御に適した場所に多く作られ、その数は、江戸時代末の薩摩藩領内には113か所もありました。



きよしきじょうあと ほりきり
清色城跡（堀切）

麓の中心には、「仮屋」と呼ばれた役所や、私領の場合は領主の屋敷がありました。その周囲を「馬場」と呼ばれる何本かの広い道と、人が歩ける程度の狭い道とで町割され、その間に武家屋敷がそれぞれ隣接するように配置されました。



かもろおかりやもん
蒲生御仮屋門

馬場は、メインストリートであると同時に、武士達が馬術の鍛錬をする場所でした。道の両側の武家屋敷は、近くを流れる川から持ってきた玉石等で作られた石垣と、その上に設けられた

高い生垣に囲まれており、屋敷内から攻撃しやすい造りです。屋敷内に入ろうとすると、門と玄関の間にも石垣や生垣があり、まっすぐには進めません。逆に主の部屋の縁側から顔を出すと、入口まで見通せて来訪者を確認できます。これらは、全て侵入者に対する備えであり、麓はまるで、城の中のように敵に備えて作られていることがわかります。そのような中でも庭園の多くは、付近の山城などを借景として美しく造られており、山城と麓の一体化した景観を象徴しています。



しぶししぶもと
志布志麓

国境にある出水麓には3,000人近い武士が配置され、近くの野間の関では、厳しい検問が行われました。鹿児島弁が他の地方の言葉と著しく異なることを利用して、幕府の隠密を見つけ出していたとも言われています。薩摩藩は、関ヶ原の戦いでは敗れた西軍に属し、戦いのあと、藩内に臨戦態勢を敷きながら、幕府と交渉し、ようやく領地を安堵されたことから、幕府や隣接する藩への警戒感が強い藩だったのです。海上交通の要衝にある手打麓や志布志麓などには、交易船を取り締まる津口番所がありました。



知覧麓庭園



出水麓



【薩摩の武士団】



お長屋 (垂水麓)

麓の子ども達は、郷中教育といって、集落ごとに年長者が年少者を教える集団教育の方法で育てられました。その教材として、戦国時代に加世田麓を治めた島津忠良が作った日新公いろは歌(古)の道を聞きても唱へても我が行にせずばかひなし)などの人生訓が使われました。その精神は、今の鹿児島の教育にも受け継がれています。郷中教育では、相撲や剣術(示現流)など体を鍛える修練や詮議という解決策を皆で考えあう訓練が重んじられていました。幕府や他の藩の武士達が、平和な江戸時代に次第に官僚化し武芸を疎かにしていく一方で、麓の武士達は、地方行政を担う傍ら武芸の鍛錬にはげみ、他の麓との武芸の対抗戦を行うことで、更に磨きをかけました。禄高が低い武士達の多くは農耕に従事し生活しており、また、用水路や石橋の築造を行うこともあったため、普段から体を鍛えることになり、麓の武士達は、日本最強といわれる武士団となっていました。

幕末期、薩摩藩の軍事力の土台となったのが、麓の武士達でした。彼らが出陣する際には、普段、一緒に訓練している麓を中心とした「郷(外城)」という地区を単位とした部隊編成が行われています。薩摩藩の風土が生んだ麓、その麓で鍛錬していた藩内各地の武士達の活躍が、明治維新を成し遂げるための大きな力となり、我が国を近代へと突き動かしていくのです。

このような薩摩の武士達も、豚骨料理やつけあげを肴に焼酎で「ダレヤメ(疲れを取るための晩酌の意)」をしたり、温泉で鍛えた体を癒したりしました。武士ならではの勇壮な祭りや農耕に従事した武士や領民を慰めるための祭りが伝えられ、武士達の信仰を集めた麓周辺の社寺等で奉納されています。農耕だけで生活できない武士が作った素朴な人形なども伝えられており、武士達の人間味あふれる側面を垣間見ることができます。



士踊り (加世田麓)

鹿児島には、最強といわれる武士団を育ててきた山城と麓を中心とした歴史的景観が、現在も大切に残されています。中世の山城跡と近世の武家屋敷群がコンパクトに体感できる独特な町並みを歩けば、どこを訪れても、往時の武士達の生き様をしのぶことができます。

「ゆくさ、おじゃったもした (ようこそ、おいでくださいました) 鹿児島」

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	かごしまじょうあと しるやま 鹿児島城跡（城山）	国天然記念物 及び史跡	南北朝時代は上山氏の山城。シラス地形特有の地形を生かし、関ヶ原の戦いの後、麓に館を加え、鹿児島城となる。	鹿児島市
②	かごしまじょうおおてぐちあと 鹿児島城 大手口跡	未指定 （史跡）	三口番所（ミクチバンドコロ）の一つ。衛士が配備され、上山城（城山）への立入を制限した。現在の照国神社西方登山道入り口付近。	鹿児島市
③	かごしまじょうしんしょういんぐちあと 鹿児島城 新照院口跡	未指定 （史跡）	三口番所（ミクチバンドコロ）の一つ。大手口と同様に衛士が配備され、上山城（城山）への立入を制限した。新照院越を登り詰めた位置付近。	鹿児島市
④	かごしまじょういわさきぐちあと 鹿児島城 岩崎口跡	未指定 （史跡）	三口番所（ミクチバンドコロ）の一つ。大手口と同様に衛士が配備され、上山城（城山）への立入を制限した。岩崎谷入口付近。	鹿児島市
⑤	かごしまじょうほんまるあと 鹿児島城 本丸跡	県史跡	初代藩主島津家久によってつくられた島津家の居城。本城ともよばれ、城下町形成及び外城制度の中心となる。	鹿児島市
⑥	かごしまじょうにのまるあと 鹿児島城 二之丸跡	未指定 （史跡）	藩主の嫡子や諸子、また隠居した藩主が居住した。県立図書館の周囲の石垣にその面影を残している。	鹿児島城
⑦	たんしょうえん 探勝園	未指定 （史跡）	鹿児島城二之丸庭園で、25代当主重豪のときにつくられた。はじめ千秋園と呼ばれていた。斉彬・久光・忠義の銅像がある。	鹿児島市
⑧	てるくにじんじゃ 照国神社	未指定 （史跡）	鹿児島城二之丸に隣接し、天台宗巨剎南泉院があった場所で、廃仏毀釈後は島津家代々の総社として鶴嶺神社が創建された。	鹿児島市
⑨	しがっこうあと いしべい 私学校跡石塀	県史跡	鹿児島城の御厩跡で、薩摩藩牛馬行政の中心であったが、その後私学校となる。弾痕跡が残る石塀が今も趣を残している。	鹿児島市
⑩	てんぽうねんかん かごしまじょうかえ ず 天保年間鹿児島城下絵図	市有形 （歴史資料）	天保年間のもので、近世鹿児島城下の実情を具体的かつ正確に伝える歴史資料。鹿児島市立美術館蔵。	鹿児島市
⑪	きいれもとふもと 喜入旧 麓	未指定 （伝建）	喜入領主肝付氏が所領していた。湧水の水路のある通りに武家門や石垣などが残る。	鹿児島市

⑫	きいれ じょうあと 給黎城跡	未指定 (史跡)	喜入旧麓の背後にある山城跡。武芸の稽古をした馬乗り馬場、激しい戦いの話が伝わる何万ヶ宇都などの地名が残る。島津氏がこの城を手に入れたことを祝って「給黎」から「喜入」となったといわれる。	鹿児島市
⑬	きもつきけきだい ぼ ち 肝付家歴代墓地	未指定 (史跡)	喜入旧麓を所領していた肝付家の墓所である。幕末に活躍した小松帯刀の父・兼善などが眠っている。	鹿児島市
⑭	みなみかたじんじゃ 南方神社	未指定 (史跡)	喜入旧麓にあり、給黎城跡の南側に位置する。永禄8年(1565)に島津一族の喜入季久により再建されたといわれる。	鹿児島市
⑮	こ べ が ぶ ち 香梅ヶ渕	未指定 (史跡)	喜入旧麓にあり、時の領主の侍女「香梅」の悲話が残る渕。エメラルドグリーン色の水はとても美しく、透き通っている。	鹿児島市
⑯	い ず み ふ も と 出水麓	国重伝建	藩境に設けられた麓で、3,000人近い武士が配置された。武家屋敷の建物や石垣、武家門等が現存する。	出水市
⑰	しろやま 城山 (かめがじょう はなみがじょう 亀ヶ城・花見ヶ城)	市史跡	出水麓地区は、戦国期に出水地方を治めた薩州家の本拠地である城山の麓に形成されており、城山は藩政期の統治者の権力を象徴する存在である。	出水市
⑱	い ず み お か り や も ん 出水御仮屋門	国重伝建 県有形 (建造物)	16世紀末頃の建造とされ、腕木3本で軒を支える他に例を見ない構造が特徴の控柱付腕木門である。現在は、出水小学校の正門となっている。	出水市
⑲	きゅうさいしよけじゅうたく 旧税所家住宅	国重伝建 市有形 (建造物)	出水麓にある屋敷。雨天時の弓の練習場や、隠れ部屋、抜け道などがあった。	出水市
⑳	きゅうたけぞえけじゅうたく 旧竹添家住宅	国重伝建 市有形 (建造物)	出水麓にある屋敷。座敷・次の間・玄関が鍵型に折れる配置が特徴的である。	出水市
㉑	の ま せきあと 野間の関跡	市史跡	薩摩三大関所の一つで薩摩藩北の守り「出水麓」を象徴する史跡である。	出水市
㉒	い ず み た ね が し ま が く 出水の種子島楽	県無形 (民俗)	藩政期初頭から伝えられてきた、種子島由来の踊りで、出水麓地区で保存され、今でも披露されている勇壮な郷土芸能。	出水市
㉓	ゆ が わ う ち お ん せん 湯川内温泉	未指定 (天然)	江戸時代、他藩からも湯治客が訪れた。現在も営業を続ける麓の武士の癒やしの湯。	出水市
㉔	い ず み ふ も と とき し か ん し ゅ う ぞ う し り ゅ う 出水麓歴史館収蔵資料	市有形 (歴史資料)	出水麓の魅力を知ることができる資料(軍役高帳、出水兵児修養掟など)がある。	出水市

②⑤	たるみずふもと 垂水 麓	未指定 (伝建)	林之城周辺は、当時の垂水麓町の通りを活用して、住宅地となっている。馬場通、犬之馬場通など現在も通りの名称や武家門が残る。	垂水市
②⑥	はやしのじょうあと 林之城跡	未指定 (史跡)	幕藩体制下、垂水麓集落の中心となった林之城（後に仮屋）跡地である。当時領主であった垂水島津家の屋敷である。現在は垂水小学校となっている。	垂水市
②⑦	ながや お長屋	県有形 (建造物)	お長屋は垂水島津家の屋敷であった林之城の城郭関連施設であり、石垣上に構築される多聞櫓の一部である。度重なる改修を受けているが、主体をなす柱や梁、石垣は建築当時のものが残存している。	垂水市
②⑧	たるみずし まづ げぼしよ 垂水島津家墓所	市史跡	垂水麓を所領していた垂水島津家の墓所である。垂水島津家の菩提寺であった心翁寺の一部である。	垂水市
②⑨	でん か じんじや お殿加神社	未指定 (史跡)	垂水麓の領主、垂水島津家初代忠将を祀った神社。麓の武士達の信仰を集めた。	垂水市
③⑩	たるみずになぎよう 垂水人形	未指定 (歴史資料)	こねた粘土を型枠に入れて形を作り、乾燥させたものを素焼きして、それに胡粉（顔料）を塗り、その上に色付けた素朴な人形である。江戸期には垂水麓の武士の内職であった。	垂水市
③①	いり きふもと 入来 麓	国重伝建	国指定史跡「清色城跡」の麓に位置し、中世から近世にかけての地割が顕著に残る。周囲の山々と一体となり美しい緑地景観を呈している。	薩摩川内市
③②	きよしきじょうあと 清色城跡	国史跡	入来麓の背後にある中世渋谷・入来院氏の居城で、古文書等による戦の記録は無いが、曲輪、堀切、空堀、土塁などが顕著に残る。	薩摩川内市
③③	きゅうますだけじゅうたく 旧増田家住宅	国重伝建 国重文 (建造物)	明治6年頃に建てられたおもてとなかえ、大正期の石蔵などで構成される同住宅は、近世麓の武家住宅の形式を継承している。入来麓の公開施設として無料で一般開放している。	薩摩川内市
③④	かやぶき門 もん	国重伝建 市有形 (建造物)	中世渋谷氏の様式を伝えているといわれ、入来麓で唯一のかやぶき型の腕木門でシンボリック的存在となっている。	薩摩川内市

③⑤	もとむら す わ 元村諏訪神社の例祭に 伴う芸能	市無形 (民俗)	入来麓に程近い元村諏訪神社は古来入来院氏の尊崇を集め、ゴフラク（御法楽）と称する旧暦 7 月 28 日に行われる大祭では、地域内の農家に対して、太鼓踊（鉦踊）の奉納が義務づけられていた。近年は 8 月末頃に元村諏訪神社の大祭が行われ、五穀豊穰を祈願する伝統行事として各地域の勇壮な太鼓踊が今も奉納されている。	薩摩川内市
③⑥	いり きおんせん 入来温泉	未指定 (天然)	入来温泉は、700 年の歴史を持つ入来麓に居住する領主直営の名湯で、三国名勝図会でも紹介されており、幼少の大久保利通や朝河貫一博士が訪れた記録が残る。	薩摩川内市
③⑦	す わ おんせん 諏訪温泉	未指定 (天然)	諏訪温泉は 300 年の歴史を持ち、江戸時代において入来麓から最も近い温泉場であった。	薩摩川内市
③⑧	いり ききょうどかんしゅうぞうしりょう 入来郷土館収蔵資料	未指定 (歴史資料)	入来麓の中にあり、入来全域の展示であるが、入来院家文書のコピーや朝河貫一博士の署名入り冊子（入来文書）などを展示している。	薩摩川内市
③⑨	さとみもと 里麓	市史跡	上甕島里地区に所在する。中世小川氏の居城であった「亀城」のほど近くに位置し、整然と積み上げられた玉石垣と生垣による町並みが残る。	薩摩川内市
④⑩	かめじょうあと 亀城跡	市史跡	通称「城山」ともいわれ、中世、甕島を統治した小川氏の居城であった。	薩摩川内市
④⑪	さと むしやおどり 里の武者踊	市無形 (民俗)	武士踊は古来、里町と下甕町手打において行われており、里の武者踊は出陣、手打の武士踊は凱旋の踊りであったとされている。	薩摩川内市
④⑫	てう ちふもと 手打麓	未指定 (伝建)	下甕島手打地区に所在し、玉石垣の続く町並みが今も残る。江戸時代、甕島は異国船監視の拠点であり、手打港近くの津口番所では幕府による出入り船舶の取調べが行われた。	薩摩川内市
④⑬	つ ぐちばんしよあと 津口番所跡	未指定 (史跡)	江戸時代、甕島は異国船監視の拠点であり、手打港近くの津口番所では幕府による出入り船舶の取調べが行われた。	薩摩川内市
④⑭	ぶ し おどり 武士踊	市無形 (民俗)	一説によると、鎌倉時代小川氏が甕島に下向した折にもたらされたものであり、その後、島津氏が甕島を統治し、関ヶ原の戦い等への出陣、凱旋を機会に奨励されたといわれている。	薩摩川内市

④⑤	くしきのふもと 串木野 麓	未指定 (伝建)	美しい武家門, 江戸時代の石製下水道管, 石垣, 古い屋敷などが残る。麓の武家屋敷には西郷隆盛の書などが残されている。	いちき串木野市
④⑥	くしきのじょうあと 串木野城 跡	未指定 (史跡)	串木野麓の背後にある山城。戦国時代末期には猛将として知られる島津家久が地頭として治めていた。	いちき串木野市
④⑦	じとうかりやあと 地頭仮屋跡	未指定 (史跡)	串木野麓の地頭仮屋は, 石垣が当時のまま残っている。	いちき串木野市
④⑧	きゅういりきていぶけやしき 旧入来邸武家屋敷	市史跡	串木野麓における幕末期の武家屋敷である。木造平屋建, 入母屋造棧瓦葺で, 建具や天井, 欄間などに意匠をみせる大規模近代和風住宅である。また, 庭木として植えられている犬槇及び五葉松も江戸時代頃と考えられる。	いちき串木野市
④⑨	くしきのきんざん 串木野金山	未指定 (史跡)	串木野金山の収益は, 明治維新を牽引する薩摩藩の大切な財源であった。現在でも金の一部採掘及び製錬は続いており, 今までの採掘量は全国 4 位である。	いちき串木野市
⑤⑩	かせだふもと 加世田 麓	未指定 (伝建)	武家門, 石垣, 屋敷の前を流れる水路, 古い屋敷が残る。	南さつま市
・	きゅうあじさかいいん 旧 鯨坂医院	国登録有形 (建造物)	加世田麓に昭和前期に鯨坂茂彦氏が建設した医院。木造平屋瓦葺き。石垣は当時のものが残っている。	南さつま市
・	さめしま たけし けいじゅうたく 鯨島 (健志) 家住宅	国登録有形 (建造物)	加世田麓の明治後期(35 年頃)築造の武家住宅。鯨島家は農園・漁業などの事業や南薩摩銀行を創業した。江戸期の武家屋敷の造りを受け継いでおり, 石垣や生垣は当時のものが残る。	南さつま市
・	さめしまひろしけいじゅうたく 鯨島博家住宅	国登録有形 (建造物)	加世田麓の明治前期(10 年頃)築造の武家住宅。室内は朱色の土壁を塗り, 奥座敷のトコ脇には軍配形窓を穿ち, 瀟洒な内観となっている。江戸期の武家屋敷の造りを受け継いでおり, 石垣や生垣は当時のものが残る。	南さつま市
・	きゅうあじさかけいじゅうたく 旧鯨坂家住宅	国登録有形 (建造物)	明治後期(35 年頃)築造の武家住宅。室内壁を朱色とし精緻な欄間をたてるなど麓集落加世田の武家屋敷の造りを良好に受け継いでおり, 石垣や生垣は当時のものが残る。	南さつま市
・	たけだじんじや 竹田神社	未指定 (史跡)	竹田神社は加世田麓の南に位置し, 島津中興の祖日新公忠良を祭る。日新公墓へ続く「いにしへの道」は, イヌマキ並木の散策道で, 領主島津忠良が作った日新公いろは歌の石碑が並ぶ。	南さつま市

・	か せ だ すいしや 加世田の水車カラクリ	県有形 (民俗)	7 月 23 日、竹田神社の六月燈で公開されている。神社前の用水溝の上に舞台を組み、水車を利用してほぼ等身大の人形を回転させる。武士達が人形を製作し上演した勇壮なカラクリ人形。	南さつま市
・	さむらいおどり 土 踊 (二才踊・稚児踊)	県無形 (民俗)	島津忠良が出陣の前に部下を集めて踊らせたのが始まりと伝えられている。二才踊と稚児踊からなり 7 月 23 日、加世田麓近くの竹田神社六月灯(夏祭り)で踊られる。	南さつま市
・	か せ だ か じ 加世田鍛冶	未指定 (無形)	加世田麓にある「志耕庵」では、武士の内職として伝承されてきた加世田鎌・加世田包丁の製作体験ができる。	南さつま市
・	し ぶ し ふもと 志布志 麓	国名勝	武家門、石垣、美しい庭園、馬場と呼ばれる通りなどが残る。麓内の湧き水は、名水として知られており、人々が汲みに訪れる。	志布志市
・	し ぶ し じょうあと 志布志城跡	国史跡	中世以降の志布志を巡る争いの中で前線の拠点として築かれた大規模な山城。麓集落はこの城跡の周囲に形成されている。広大な城域が城下の武家屋敷を含めて景観とともによく保存されている。	志布志市
・	じ とう かりやあと 地頭仮屋跡	市史跡	地頭仮屋跡は内城南端に位置し、志布志麓の行政施設であり、現在はその石垣が残る。	志布志市
・	し ぶ し ふもとていえん 志布志 麓庭園 (天水氏庭園)	国名勝	築山枯山水様式を取り入れた庭園で、江戸中期の作と伝えられている。借景に志布志城(内城)を配しており、景観に深く奥行きを見せている。	志布志市
・	し ぶ し ふもとていえん 志布志 麓庭園 (福山氏庭園)	国名勝	築山枯山水様式を取り入れた庭園で、庭門を入ると築山の前面に広い前庭を持ち、武芸の鍛錬場として利用されていた。生垣越しに古刹宝満寺の薨と背後の山並みを借景としていた。	志布志市
・	し ぶ し ふもとていえん 志布志 麓庭園 (平山氏庭園)	国名勝	古寺石峯寺時代の住職により江戸初期に作庭されたと推定される、築山鑑賞式の庭園である。大岩の崖を主景としその上にサツキ・ツツジを配して青々とした山の景観を表現している。	志布志市
・	きよみず ていえん 清水氏庭園	国登録記念物 (名勝)	志布志麓に居住していた武士の作庭であり、前川と背後の自然景観を借景としている。	志布志市

・	とりはま していえん 鳥濱氏庭園	国登録記念物 (名勝)	志布志麓に居住していた武士の作庭であり、志布志城跡の自然景観を借景としている。	志布志市
・	つぐちばんしよあと 津口番所跡	市史跡	前川河口にあり、藩政時代、廻船・貿易船の積荷を取り締まるため、麓の武士が常駐していた。現在は石垣が当時の面影を残す。	志布志市
・	ほうまんじあと 宝満寺跡	県史跡	奈良時代創建といわれる宝満寺は、志布志麓の寺として、麓の武士の信仰を集めてきた。現在は宝満寺公園として、お釈迦まつりの会場として、また志布志麓の歴史観光拠点の1つとなっている。	志布志市
・	だいじじ 大慈寺	未指定 (史跡)	大慈寺には多くの書籍・絵画・彫刻が今も残されている。最盛期には8町四方の寺域を有し、16の支院があり、禅門に学ぶ雲水が100名を越え、地方僧俗の学問拠点として栄えた。志布志麓の武士の学問の場でもあった。	志布志市
・	ちらんふもと 知覧麓	国重伝建 国名勝	武家門、石垣、美しい庭園、古い屋敷、馬場と呼ばれる通りなどが残る。通りに面した石垣の上に生垣が連なり、庭園都市的な造りで、薩摩の小京都と呼ばれるほど美しい。	南九州市
・	ちらんじょうあと 知覧城跡	国史跡	南九州の中世城郭を代表する城跡で、知覧麓の武士たちの母体で、知覧麓の原型。シラス地形特有の直立した崖を利用している。	南九州市
・	きつこうじょうあと 亀甲城跡	国重伝建 市史跡	中世、知覧城の出城で、地形が巻貝の蜷に似てらせん状になっていることから「蜷尻城」とも呼ばれている。	南九州市
・	きゅう た きてい た きあん 旧 高城邸と高城庵	国重伝建	知覧麓にある茅葺屋根の旧高城邸は、知覧型二ツ家の形態を残す江戸時代からの武家屋敷、母屋では隣接する食事処高城庵が薩摩の郷土料理などを観光客に提供している。	南九州市
・	ちらんがたふたつやみんか 知覧型二ツ家民家	国重伝建 市有形 (建造物)	オモテとナカエを連結した建物で棟をつなぐ形状が知覧独特であることから知覧型二ツ家と呼ばれる。近くの武家屋敷を移設したもの。	南九州市
・	ちらんふもとていえん 知覧麓庭園	国名勝	知覧を統治する武士たちの屋敷と周辺の山々を取り込んだ借景や枯山水庭園が7か所、琉球・中国の影響を受けた優れた意匠の庭園を有する。	南九州市
・	ちらんぶ け やしき ちやいけがき 知覧武家屋敷の茶生垣	国重伝建	知覧麓の武家屋敷には、低木の茶の生垣が植えられている。ここにも茶どころ知覧のルーツが垣間見られる。	南九州市

・	知覧麓のメインストリート（本馬場通り）のかぎ型の通りと石敢當	国重伝建市有形	知覧麓の武家屋敷の中心通り（本馬場通り）のかぎ状に折れ曲がった通りとT字状に点在する石敢當。	南九州市
・	銀杏の巨木	未指定（天然）	樹齢約250年以上は経過しているといわれる。この木を起点にして亀甲城の山頂に向け真直ぐに知覧麓の本馬場通りを造ったと伝わる。	南九州市
・	島津墓地	市史跡	知覧麓を所領していた知覧島津氏の菩提寺で歴代の領主や西福寺の僧侶の墓などがある。	南九州市
・	豊玉姫神社と水車からくり	国選択無形県有形（民俗）	16 世紀末に知覧麓から祭神を現豊玉姫神社へ移動、毎年7月9・10日に勇壮な水車カラクリが行われる。麓の武士が人形を製作した。	南九州市
・	豊玉姫 陵	未指定（史跡）	知覧麓の亀甲城下の田んぼにある豊玉姫神社の祭神豊玉姫の陵墓で、鋤を入れてはならないという言い伝えがある。	南九州市
・	知覧傘提灯	未指定（無形）	知覧麓に江戸時代から続く工芸品の一つ。武士の内職として富永家に伝わる竹製工芸品。	南九州市
・	矢櫃橋	市史跡	知覧麓の武士、瀬戸口某が嘉永 5（1853）に築いた眼鏡橋で度重なる大洪水でもびくともしない景観にマッチした美しい橋。	南九州市
・	ミュージアム知覧収蔵資料	未指定（工芸品）	ミュージアム知覧には、知覧麓の武家屋敷から寄託・寄贈された近世・近代の琉球漆器が多数展示・保管されている。琉球と関係が深かった薩摩藩時代の痕跡の証でもある。	南九州市
・	蒲生 麓	未指定（伝建）	麓は9本の馬場と3本の小路で整然と区画割されている。現在は、西馬場に武家門をもつ武家屋敷群が残る。	始良市
・	蒲生城跡	未指定（史跡）	保安4年（1123）～弘治3年（1557）蒲生を治めた蒲生氏の本城。江戸時代中頃までの地頭仮屋は城の北麓（迫地区）にあったとされる。	始良市
・	蒲生御仮屋門	県有形（建造物）	始良市蒲生総合支所にある蒲生麓の地頭仮屋の正門で、政治行政の中心。文政9年（1826）建立の控柱付腕木門。	始良市
・	御仮屋犬槇（一ツ葉）	市天然	樹齢400年といわれている犬槇で、蒲生麓の御仮屋門の脇に植えられていた。犬槇の生垣は、鹿児島県の麓に多用されている。	始良市

・	かもう はちまんじんじや 蒲生八幡神社	未指定 (史跡)	保安 4 年 (1123) に蒲生氏初代舜清が豊前国宇佐八幡を勧請し創建。麓の北西端に位置し、蒲生の総社として麓の武士の信仰を集めた。勇壮な太鼓踊りの舞台である。	始良市
・	かもう 蒲生のクス	国特別天然	樹高 30 メートル、幹囲は 24 メートルに達し、全国巨樹・巨木林調査の結果からみて、全国一の太さを誇る巨樹である。八幡神社境内にあり、麓の武士達の信仰の対象であった。神社が建立された当時 (1123 年) にすでに神木とされていたことから考えて、樹齢千年を越す堂々たる老木である。	始良市
・	たいこおど 太鼓踊り	市無形 (民俗)	毎年 8 月 21 日に 4 つの保存会が、蒲生麓の辻通りと蒲生八幡神社境内で勇壮な太鼓踊りを奉納。	始良市
・	かもう かみす 蒲生の紙漉き	未指定 (無形民俗)	正保 2 年 (1647)、藩が蒲生の下級武士に御用紙を製造させたことに始まる手漉き和紙づくり。	始良市
・	かけはしざか 掛橋坂	県史跡	掛橋坂は蒲生麓と薩摩国の蘭牟田・祁答院方面を結ぶ江戸時代の地方街道にあり、蒲生麓が管理していた。年貢米の輸送路として難所であったこの坂は石畳道に整備された。	始良市
・	いもしょうちゅう 芋焼酎	生活文化	芋焼酎は、古くから武士達も愛飲していたが、幕末の薩摩藩主、島津斉彬が製法の改良を研究させ明治時代に改良に成功したといわれている。	鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市
・	つけあげ (さつまあげ)	生活文化	島津斉彬が、はんぺんやかまぼこを基に開発させたという説がある。県内ほとんどの麓で食べられていた。	鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市

構成文化財の写真一覧

① 鹿児島城跡（城山）



④ 鹿児島城岩崎口跡



② 鹿児島城大手口跡



⑤ 鹿児島城本丸跡



③ 鹿児島城新照院口跡



⑥ 鹿児島城二之丸跡



⑦ 探勝園



⑩ 天保年間城下絵図



⑧ 照国神社



⑪ 喜入旧麓



⑨ 私学校跡石堀



⑫ 給黎城跡



⑬ 肝付家歴代墓地



⑯ 出水麓



⑭ 南方神社



⑰ 城山（亀ヶ城・花見ヶ城）



⑮ 香梅ヶ淵



⑱ 出水御飯屋門



⑲ 旧税所家住宅



⑳ 出水の種子島楽



㉑ 旧竹添家住宅



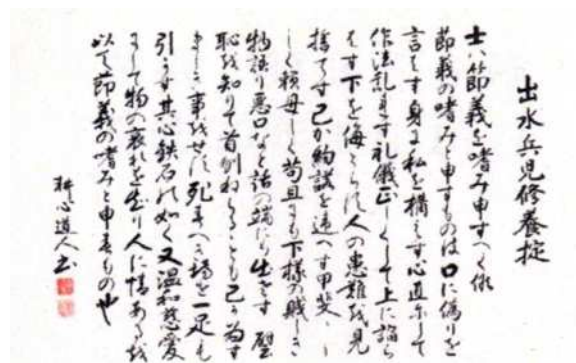
㉒ 湯川内温泉



㉓ 野間の関跡



㉔ 出水麓歴史館収蔵資料
(出水兵児修養掟)



②⑤ 垂水麓



②⑧ 垂水島津家墓所



②⑥ 林之城跡



②⑨ お殿加神社



②⑦ お長屋



③⑩ 垂水人形



③① 入来麓



③④ かやぶき門



③② 清色城跡



③⑤ 元村諏訪神社の例祭に伴う芸能



③③ 旧増田家住宅



③⑥ 入来温泉



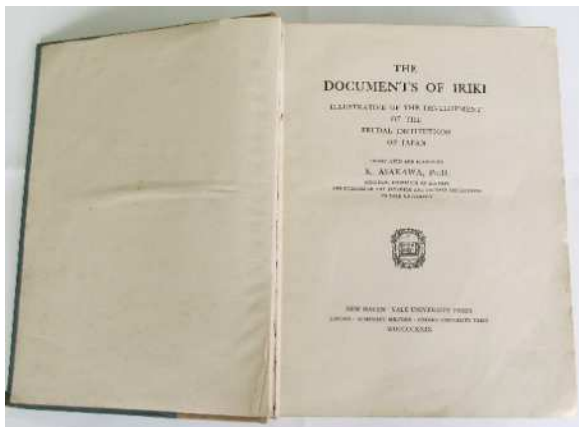
③⑦ 諏訪温泉



④⑩ 亀城跡



③⑧ 入来郷土館収蔵資料 (入来文書)



④① 里の武者踊



③⑨ 里麓



④② 手打麓



④③ 津口番所跡



④⑥ 串木野城跡 (堀切)



④④ 武士踊



④⑦ 地頭仮屋跡



④⑤ 串木野麓



④⑧ 旧入来邸武家屋敷



④⑨ 串木野金山



・ 鮫島（健志）家住宅



⑤⑩ 加世田麓



・ 鮫島博家住宅



・ 旧鯨坂医院



・ 旧鯨坂家住宅



- ・ 竹田神社



- ・ 加世田鍛冶



- ・ 加世田の水車カラクリ



- ・ 志布志麓



- ・ 土踊（二才踊・稚児踊）



- ・ 志布志城跡



- ・ 地頭仮屋跡



- ・ 志布志麓庭園 (平山氏庭園)



- ・ 志布志麓庭園 (天水氏庭園)



- ・ 清水氏庭園



- ・ 志布志麓庭園 (福山氏庭園)



- ・ 鳥濱氏庭園



- ・ 津口番所跡



- ・ 知覧麓



- ・ 宝満寺跡



- ・ 知覧城跡



- ・ 大慈寺



- ・ 亀甲城跡



- ・ 旧高城邸と高城庵



- ・ 知覧武家屋敷の茶生垣



- ・ 知覧型二ツ家民家



- ・ 知覧麓のメインストリート（本馬場通り）のかぎ型の通りと石敢當



- ・ 知覧麓庭園



- ・ 銀杏の巨木



- ・ 島津墓地



- ・ 知覧傘提灯



- ・ 豊玉姫神社と水車からくり



- ・ 矢櫃橋



- ・ 豊玉姫陵



- ・ ミュージアム知覧収蔵資料
(黒漆梅螺鈿八角盆)



- ・ 蒲生麓



- ・ 御飯屋犬槨（一ツ葉）



- ・ 蒲生城跡



- ・ 蒲生八幡神社



- ・ 蒲生御飯屋門



- ・ 蒲生のクス



- ・ 太鼓踊り



- ・ 芋焼酎



- ・ つけあげ (さつま揚げ)



- ・ 蒲生の紙漉き



- ・ 掛橋坂



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

「鹿児島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」「かごしま未来創造ビジョン」及び「鹿児島県観光振興基本方針」による取組との整合性を図りながら、「ふるさと」の誇りの源泉となる固有の自然・歴史・文化・伝統等を含む地域資源や、これまで地域で継続してきた取組などを活用して、地域住民が主体となった「希望と思いやりに満ちたふるさと鹿児島」の実現に向けた地方創生の推進に取り組むとともに、魅力ある観光地づくりや戦略的な観光客誘致の取組により、国内外からの観光客でにぎわう地域となっています。

この将来像と連動させて、以下のような日本遺産を通じた地域活性化の将来像の実現に向けて取り組みます。

- 1 日本遺産認定を契機に、日本の南の玄関口としての地の利を生かして、中国、韓国等に直行便がある鹿児島空港や将来開通予定の高速道路網の利用、さらには、大型クルーズ船の寄港を利用するなどして、多くの観光客が訪れる地域になっています。
- 2 「麓」の景観や美しい自然、温泉、歴史・文化資源など、多様な「地域の宝」の輝きに更に磨きをかけ、魅力ある観光地づくりを進めるとともに、これらを有機的にネットワーク化させた新たな観光プログラムを構築し、多くの観光客が満足する地域となっています。
- 3 日本遺産ブランドを活用した商品を開発・販売し、その商品を扱う県内の工場や販売店での雇用が増加することで、地域の経済が活性化し、地域に残る若者やI・Uターンによる住民が増加することで持続可能な地域となっています。
- 4 日本遺産認定を契機に、地域住民が郷土の歴史・文化財の重要性を再認識することで、文化財を保護し後世に伝えようとする強い意識と、郷土に誇りを持ち、郷土を愛する気持ちにあふれた地域になっています。

(2) 地域活性化のための取組の概要

I 地域活性化を目指して

鹿児島県は、温暖な気候、豊かな自然、美しい景観、豊富な温泉資源、安心・安全な「食」など、世界に通用する有益な地域資源を多く有しています。これらを「鹿児島のウェルネス」として価値の再認識・磨き上げを行い、ブランド化を図り、さらに、国内外に効果的に発信することにより、本県地域資源の付加価値の創出・向上や販路拡大、観光客の誘致などにつなげようと取り組んでいます。

こうした中、今回の日本遺産への取組を成功させることで、鹿児島の先人たちが、幕末という時代の大きな変革期に未知の時代を切り拓き、近代国家の礎を築き上げたように、私たちが鹿児島をどんどん発展させ、地域の活性化を図り、未来を担う子ども達にバトンタッチしてあげたいと考えています。

II 現在の課題と解決手法

本県は、我が国本土の最南端に位置し、世界の経済成長の6割を占めるアジアに近接しており、この地理的優位性を生かした地域活性化のための取組が求められています。麓においては近年、地域観光の重点地域として、環境整備が進み、誘客のための様々な取組が行われているものの、知名度の不足や各事業間の連携不足により、観光客を効果的に呼び込むための工夫が必要となっています。

このため、ソウル、上海、台北、香港といった主要都市と定期航空路線で結ばれている等の地理的特性を生かしながら、地域における自治体・団体・個人の活動を一体のものとして展開し、より大きな成果を得るために協議会を設立して、以下の取組を行うことにより、観光客数の増加及び郷土愛の醸成などを実現して、観光や産業振興などを図ります。

III 事業全体の考え方

1 国内外の観光客への情報発信

- ・現在、麓地区の中で最も観光客の入り込み数が多い知覧麓では、インバウンドが観光客全体の1/4を占めており、その他の地区においても対応が急務となっています。
- ・インバウンドの国籍等については詳細な分析を行っていないことから、実態調査を行いターゲットを絞り込んだ上で、インフルエンサー等を利用した集中的な情報発信を行います。
- ・鹿児島空港への直行便がある韓国、上海、香港、台湾の4地域については、空港からレンタカーによる個人旅行も増加しており、同空港を拠点とする国内外の観光客を対象とした、各地域の魅力ある観光資源（出水のソル、蒲生の大クス等）を取り入れたモデルコースを作成して情報発信を行います。
- ・年間100隻以上（平成29年度実績）の大型クルーズ船が寄港する鹿児島市や国内の他地域を経由して鹿児島県に来る際の窓口であるJR駅（鹿児島中央駅、出水駅、川内駅）や関西からの定期貨客船が就航している志布志港からのルートについてもモデルコースを作成して情報発信を行います。
- ・作成したモデルコースは、単なる観光ルートではなく日本遺産を体感できる体験型ツーリズムとして、入来麓が取り組んでいる鎧着付け・街歩き体験、茶道体験などの取組を各地域へ拡充して、磨き上げていきます。
- ・一部地域で取り組んでいる農泊を未実施の各地域へ拡充し、体験メニューに上記の体験型ツーリズムを取り入れることにより充実を図ります。
- ・海外の旅行者への情報提供は、現在、各地域ごとに取り組んでいますが、日本遺産のブランド力を活用して一体となった情報提供を行うことで誘客を図ります。
- ・HPを多言語で作成して、定期的に更新することで、常に新しい情報提供に努めます。

2 観光客受入体制の整備

- ・現在、一部地域に導入されているWi-Fi等を活用した多言語解説システムについて、未整備の地域への導入促進を図ります。
- ・ガイド育成として、ガイド用マニュアル本を作成するとともに、日本遺産を説明するガイドを育成する研修会を開催し、外国人観光客への接遇などの研修を行い、おもてなしの気持ちが海外の方へ伝わるようにします。
- ・周辺店舗に、キャッシュレス決済を導入することの必要性を呼びかけて、導入を促進し、導入した店舗の情報を発信します。

- ・ストーリーを体験するための多言語対応の説明板等を設置します。
- ・駐車場、トイレ等が未整備の地域については、順次、整備を進めていきます。
- ・現在ある麓資料館等を利用して日本遺産コーナーを設置し、日本遺産全体を理解するための拠点とします。
- ・麓保存会、観光協会、商店街等の理解と協力を得た上で、武家屋敷や近隣観光施設等の入館料が割引になり、地元飲食店や土産物店の特典が付いた「麓巡り手形」をルートマップとともに販売します。

3 ストーリーの深化

- ・中世から近代にかけての文献等の調査研究を実施し、メインストーリーを補強するサブストーリーを抽出します。

4 新かごしま加工品の開発及びサポーター企業の募集

- ・鹿児島県の産業の基幹は農林水産業です。そこで特産品であり、古来麓で活用されてきた黒豚、茶、サツマイモ等を活用した商品を開発し、地元企業に提供します。
- ・県内に事務所をおく企業に広く呼びかけ、日本遺産の取組に賛同するサポーター企業を募集します。

5 日本遺産ロゴマーク、サムライグッズの開発

- ・日本遺産の統一ロゴマークを使用することで、各地域で一体感を持って事業推進に取り組むこととします。
- ・地元産品を活用した土産品（サムライグッズ等）や日本遺産ブランドの焼酎など独自の商品開発に取り組み地元店舗で販売します。

6 子どもたちへの地域文化等の継承

- ・地域の継承者である子どもたちに、地域の歴史・文化・伝統の良さを伝えるために、学校の授業等で活用するための副読本を作成したり、日本遺産の出前講座を設け、学校等へ案内します。
- ・現在、一部の学校で行っているガイド活動を他の地域にも広めて、子どもたちの地域文化等への理解を深めるとともに、郷土を愛する心を育成します。

7 地元住民の地域づくり参加促進

- ・日本遺産認定を契機に地域の歴史・文化・伝統の良さを再確認するシンポジウムを開催したり、ツアーガイド育成講座での研修等を通じて、住民の地域への理解を深め、郷土愛を醸成することにより、住民の地域づくりへの参加を促します。

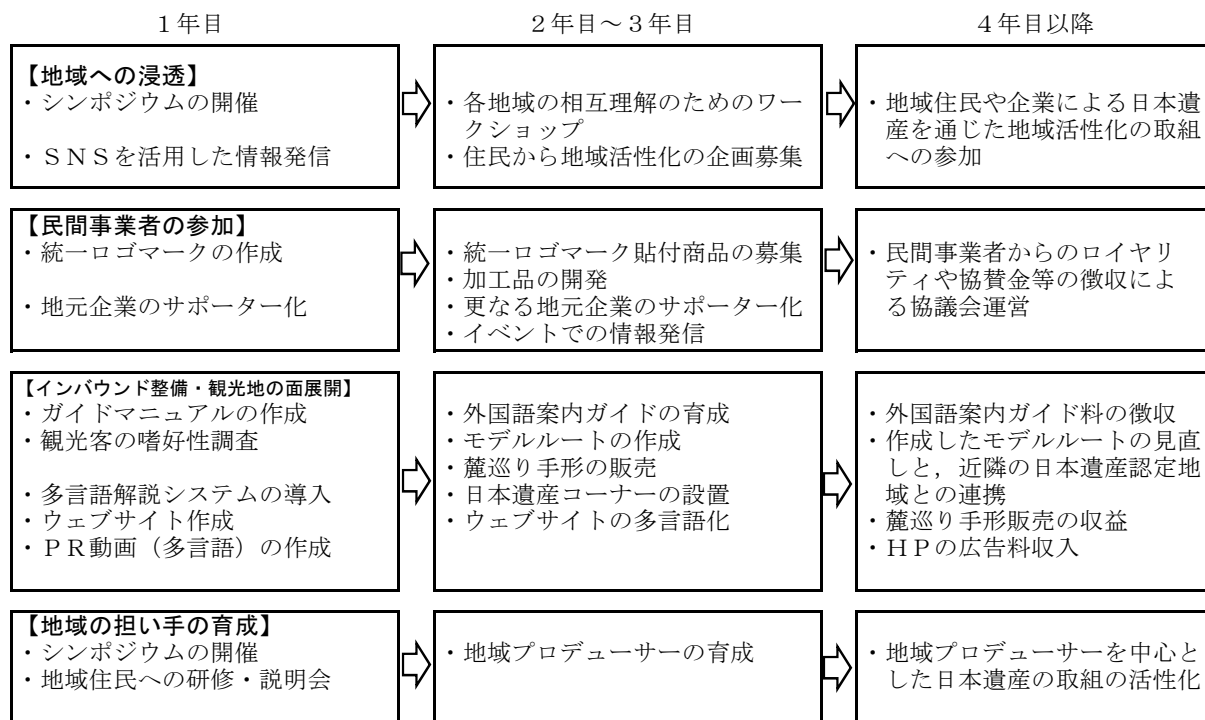
(3) 自立的・継続的な取組

協議会運営は、日本遺産の取組を通じた観光客数の増加とともに徐々に民間主導の運営に移管することとし、行政は協議会の中で各団体等と検討して、駐車場の整備など必要な事業を進めていきます。また、以下のとおり協議会の自立的・継続的な運営のための取組を実施し、補助事業終了後も安定的・継続的に事業を推進します。

特に、観光客数の増加については、現在、年間100隻程度のクルーズ船が寄港している「マリンポートかごしま」（鹿児島市）において、2019年度には2次交通手段となる高速船の乗り入れにより、クルーズ船寄港の経済効果が県内各地に波及するとともに、2020年度には、世界最大の22万トン級クルーズ船の入港システムに対応した岸壁が整備され、官民連携の国際クルーズ拠点形成港湾として2隻同時に入港可能となり、巨大市場である東アジアとの近さなどにより更なる観光客の増加が見込まれることから、協議会運営の追風となることが期待されています。

- 1 SNSを活用した情報発信、シンポジウムの開催及び各地域の相互理解のためのワークショップ等を通じて、日本遺産の取組への参加の気運を醸成し、地域住民や地元企業へ日本遺産を浸透させます。
- 2 協議会活動が広範囲に及ぶことから協議会組織に地域支部を設け、各支部毎に地域プロデューサーを中心とした民間事業者の巻き込みを積極的に展開します。その取組により日本遺産の取組に賛同する民間事業者を日本遺産サポーターとし、当該民間事業者からの寄付や企業広告への掲載等の様々な支援を協議会運営に活かしていきます。
- 3 新かごしま加工品、サムライグッズ開発により創作した商品販売に協力する民間事業者を募り、ロイヤリティを徴収して協議会運営に活かしていきます。
- 4 日本遺産統一ロゴマークを作成するとともに、ロゴマーク添付商品を扱う民間事業者を募り、協賛金を徴集します。
- 5 武家屋敷や近隣観光施設の入館料が割引になる麓巡り手形を販売し、収益金の一部を協議会で活用します。
- 6 インバウンドに対応した外国語ガイドの有料化を図り、一部を協議会の収入とします。
- 7 地域プロデューサーのほか住民の方々に對し、日本遺産の取組に関する研修等を行うことにより、当該取組が安定的に行えるよう地域の担い手の育成を図ります。
- 8 県及び参加各市の負担金で、協議会の安定的な運営を支えます。
- 9 文化庁や他の省庁、県の補助事業や各市の事業を活用して、観光客受入体制の整備などに取り組めます。

〔自立的・継続的な取組の年次計画〕



（４）実施体制

鹿児島県日本遺産魅力発信推進協議会（仮称）

構成：【広域民間団体】

県観光連盟、県特産品協会、県商工会連合会、県商工会議所連合会、NPO法人 等

【地元民間団体】

武家屋敷群保存会、観光協会、特産品協会、ガイド団体、イベント等実施団体、飲食業者、物販業者、バス協会、タクシー協会、商工会、商工会議所、JA 等

【自治体】

鹿児島県（文化財課、観光課、かごしまPR課）
 鹿児島市（文化財課、観光プロモーション課）
 出水市（文化財課、シティセールス課、産業振興総務課）
 垂水市（社会教育課、水産商工観光課）
 薩摩川内市（文化課、観光・シティセールス課）
 いちき串木野市（社会教育課、観光交流課）
 南さつま市（文化課、観光交流課）
 志布志市（生涯学習課、港湾商工課）
 南九州市（文化財課、商工観光課）
 姶良市（社会教育課、商工観光課）

※ プロジェクト委員会

協議会本部に、実施事業等を企画・提案するために、民間団体の担当者、地域プロデューサー及び行政で構成されるプロジェクト委員会を設置して、定期的に意見交換するなど協議会の事業を効率的に遂行します。また、分野ごとのワーキンググループを設置し、ワーキンググループを取りまとめるグループリーダーを選出します。

※ プロジェクトリーダー

プロジェクト委員会の長にプロジェクトリーダーを任命し、熱意ある民間人を起用します。プロジェクトリーダーは、委員会の検討結果を踏まえ、協議会総会に提案を行います。

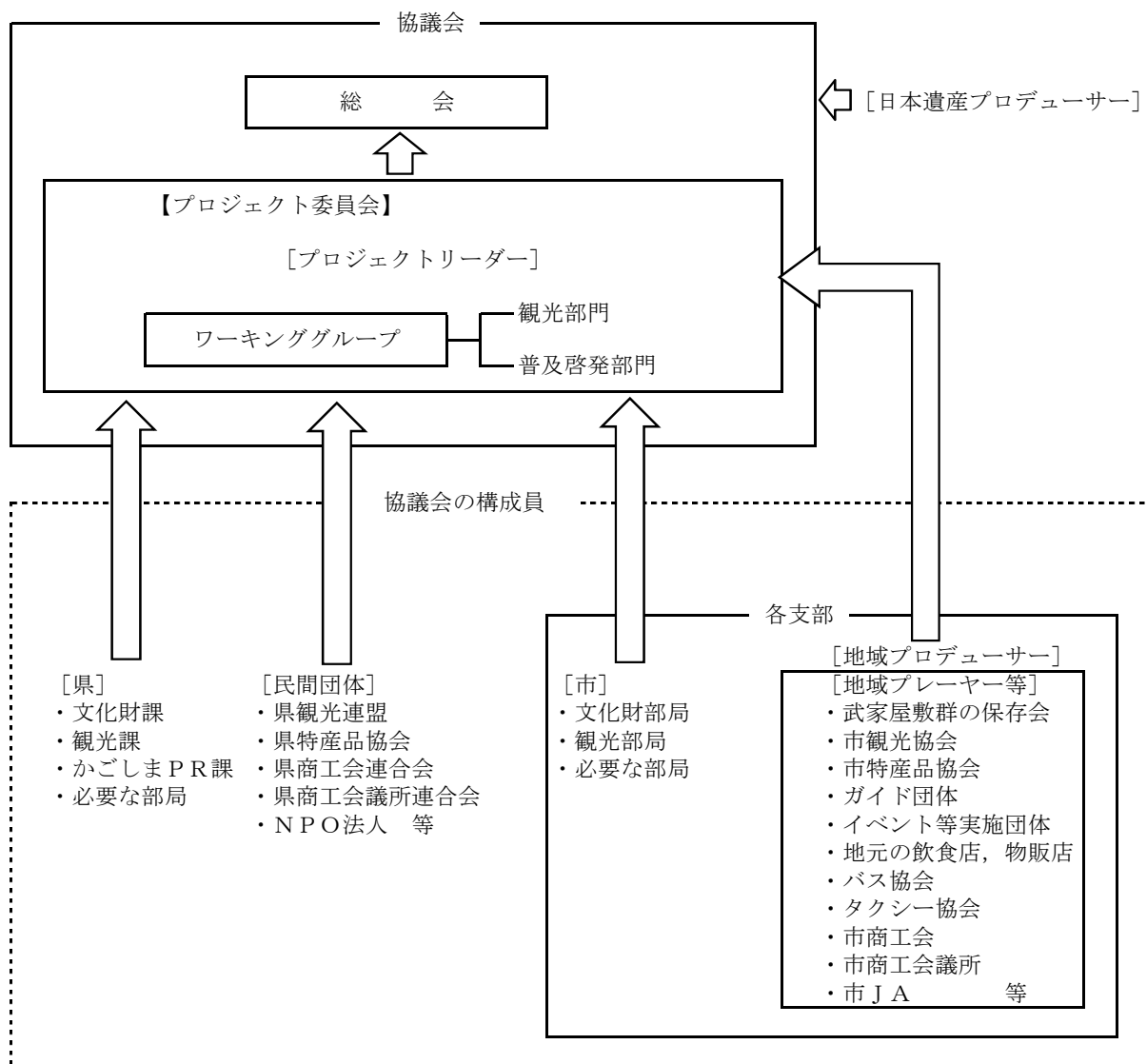
※ 地域プロデューサー

地元民間団体等の地域プレイヤーをまとめ、事業を主体的に実行する地域プロデューサーを各地域に設けます。

※ アドバイザー

日本遺産プロデューサーのアドバイスにより、取組の質を向上させます。

〔推進体制〕



※ 既に、各地域での説明会や県下一円を対象とした日本遺産シンポジウムを開催するなど、日本遺産認定を見据えた気運の醸成に努めているところです。

また、平成30年11月には、プロジェクト準備委員会を設立し、各市の地域プレーヤーの代表である地域プロデューサーの中からプロジェクトリーダーの選出を行うなど、民間主導の推進体制の整備に努めているところです。

(５) 地域活性化計画における目標と期待される効果				定量的評価：		別紙①のとおり							
期待される効果：		日本遺産の取組を通じて、国内外の観光客が増加することにより、異文化との交流の機会が生まれるなど、地域住民の活動が活性化します。また、古い町並みである麓などの地域の文化に、愛着や誇りを感じる住民の数が増えることで、地域住民が連携しようとする気運が高まり、地域社会の再生を図ることができます。さらに、この取組を自立的なものとし、持続可能な体制を維持・確立することで、観光客の増加、地域の活性化及び地域社会の再生を永続させるものであります。											
(６) 日本遺産魅力発信推進事業				別紙②のとおり									
補助金額：		平成31年度：		66, 017千円		平成32年度：		30, 000千円		平成33年度：		10, 000千円	
(７) その他事業				別紙③のとおり									

(５) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	各市の観光客入込み数
関連事業：	(6)①, ②, ③, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩ (7)①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮, ⑯, ⑰, ⑱, ⑲, ⑳, ㉑, ㉒, ㉓, ㉔, ㉕, ㉖, ㉗, ㉘, ㉙, ㉚, ㉛, ㉜, ㉝, ㉞, ㉟, ㊱, ㊲, ㊳, ㊴, ㊵, ㊶, ㊷, ㊸, ㊹, ㊺, ㊻, ㊼, ㊽, ㊾, ㊿, ㏀, ㏁, ㏂, ㏃, ㏄, ㏅, ㏆, ㏇, ㏈, ㏉, ㏊, ㏋, ㏌, ㏍, ㏎, ㏏, ㏐, ㏑, ㏒, ㏓, ㏔, ㏕, ㏖, ㏗, ㏘, ㏙, ㏚, ㏛, ㏜, ㏝, ㏞, ㏟, ㏠, ㏡, ㏢, ㏣, ㏤, ㏥, ㏦, ㏧, ㏨, ㏩, ㏪, ㏫, ㏬, ㏭, ㏮, ㏯, ㏰, ㏱, ㏲, ㏳, ㏴, ㏵, ㏶, ㏷, ㏸, ㏹, ㏺, ㏻, ㏼, ㏽, ㏾, ㏿, 㐀, 㐁, 㐂, 㐃, 㐄, 㐅, 㐆, 㐇, 㐈, 㐉, 㐊, 㐋, 㐌, 㐍, 㐎, 㐏, 㐐, 㐑, 㐒, 㐓, 㐔, 㐕, 㐖, 㐗, 㐘, 㐙, 㐚, 㐛, 㐜, 㐝, 㐞, 㐟, 㐠, 㐡, 㐢, 㐣, 㐤, 㐥, 㐦, 㐧, 㐨, 㐩, 㐪, 㐫, 㐬, 㐭, 㐮, 㐯, 㐰, 㐱, 㐲, 㐳, 㐴, 㐵, 㐶, 㐷, 㐸, 㐹, 㐺, 㐻, 㐼, 㐽, 㐾, 㐿, 㑀, 㑁, 㑂, 㑃, 㑄, 㑅, 㑆, 㑇, 㑈, 㑉, 㑊, 㑋, 㑌, 㑍, 㑎, 㑏, 㑐, 㑑, 㑒, 㑓, 㑔, 㑕, 㑖, 㑗, 㑘, 㑙, 㑚, 㑛, 㑜, 㑝, 㑞, 㑟, 㑠, 㑡, 㑢, 㑣, 㑤, 㑥, 㑦, 㑧, 㑨, 㑩, 㑪, 㑫, 㑬, 㑭, 㑮, 㑯, 㑰, 㑱, 㑲, 㑳, 㑴, 㑵, 㑶, 㑷, 㑸, 㑹, 㑺, 㑻, 㑼, 㑽, 㑾, 㑿, 㒀, 㒁, 㒂, 㒃, 㒄, 㒅, 㒆, 㒇, 㒈, 㒉, 㒊, 㒋, 㒌, 㒍, 㒎, 㒏, 㒐, 㒑, 㒒, 㒓, 㒔, 㒕, 㒖, 㒗, 㒘, 㒙, 㒚, 㒛, 㒜, 㒝, 㒞, 㒟, 㒠, 㒡, 㒢, 㒣, 㒤, 㒥, 㒦, 㒧, 㒨, 㒩, 㒪, 㒫, 㒬, 㒭, 㒮, 㒯, 㒰, 㒱, 㒲, 㒳, 㒴, 㒵, 㒶, 㒷, 㒸, 㒹, 㒺, 㒻, 㒼, 㒽, 㒾, 㒿, 㓀, 㓁, 㓂, 㓃, 㓄, 㓅, 㓆, 㓇, 㓈, 㓉, 㓊, 㓋, 㓌, 㓍, 㓎, 㓏, 㓐, 㓑, 㓒, 㓓, 㓔, 㓕, 㓖, 㓗, 㓘, 㓙, 㓚, 㓛, 㓜, 㓝, 㓞, 㓟, 㓠, 㓡, 㓢, 㓣, 㓤, 㓥, 㓦, 㓧, 㓨, 㓩, 㓪, 㓫, 㓬, 㓭, 㓮, 㓯, 㓰, 㓱, 㓲, 㓳, 㓴, 㓵, 㓶, 㓷, 㓸, 㓹, 㓺, 㓻, 㓼, 㓽, 㓾, 㓿, 㔀, 㔁, 㔂, 㔃, 㔄, 㔅, 㔆, 㔇, 㔈, 㔉, 㔊, 㔋, 㔌, 㔍, 㔎, 㔏, 㔐, 㔑, 㔒, 㔓, 㔔, 㔕, 㔖, 㔗, 㔘, 㔙, 㔚, 㔛, 㔜, 㔝, 㔞, 㔟, 㔠, 㔡, 㔢, 㔣, 㔤, 㔥, 㔦, 㔧, 㔨, 㔩, 㔪, 㔫, 㔬, 㔭, 㔮, 㔯, 㔰, 㔱, 㔲, 㔳, 㔴, 㔵, 㔶, 㔷, 㔸, 㔹, 㔺, 㔻, 㔼, 㔽, 㔾, 㔿, 㕀, 㕁, 㕂, 㕃, 㕄, 㕅, 㕆, 㕇, 㕈, 㕉, 㕊, 㕋, 㕌, 㕍, 㕎, 㕏, 㕐, 㕑, 㕒, 㕓, 㕔, 㕕, 㕖, 㕗, 㕘, 㕙, 㕚, 㕛, 㕜, 㕝, 㕞, 㕟, 㕠, 㕡, 㕢, 㕣, 㕤, 㕥, 㕦, 㕧, 㕨, 㕩, 㕪, 㕫, 㕬, 㕭, 㕮, 㕯, 㕰, 㕱, 㕲, 㕳, 㕴, 㕵, 㕶, 㕷, 㕸, 㕹, 㕺, 㕻, 㕼, 㕽, 㕾, 㕿, 㖀, 㖁, 㖂, 㖃, 㖄, 㖅, 㖆, 㖇, 㖈, 㖉, 㖊, 㖋, 㖌, 㖍, 㖎, 㖏, 㖐, 㖑, 㖒, 㖓, 㖔, 㖕, 㖖, 㖗, 㖘, 㖙, 㖚, 㖛, 㖜, 㖝, 㖞, 㖟, 㖠, 㖡, 㖢, 㖣, 㖤, 㖥, 㖦, 㖧, 㖨, 㖩, 㖪, 㖫, 㖬, 㖭, 㖮, 㖯, 㖰, 㖱, 㖲, 㖳, 㖴, 㖵, 㖶, 㖷, 㖸, 㖹, 㖺, 㖻, 㖼, 㖽, 㖾, 㖿, 㗀, 㗁, 㗂, 㗃, 㗄, 㗅, 㗆, 㗇, 㗈, 㗉, 㗊, 㗋, 㗌, 㗍, 㗎, 㗏, 㗐, 㗑, 㗒, 㗓, 㗔, 㗕, 㗖, 㗗, 㗘, 㗙, 㗚, 㗛, 㗜, 㗝, 㗞, 㗟, 㗠, 㗡, 㗢, 㗣, 㗤, 㗥, 㗦, 㗧, 㗨, 㗩, 㗪, 㗫, 㗬, 㗭, 㗮, 㗯, 㗰, 㗱, 㗲, 㗳, 㗴, 㗵, 㗶, 㗷, 㗸, 㗹, 㗺, 㗻, 㗼, 㗽, 㗾, 㗿, 㘀, 㘁, 㘂, 㘃, 㘄, 㘅, 㘆, 㘇, 㘈, 㘉, 㘊, 㘋, 㘌, 㘍, 㘎, 㘏, 㘐, 㘑, 㘒, 㘓, 㘔, 㘕, 㘖, 㘗, 㘘, 㘙, 㘚, 㘛, 㘜, 㘝, 㘞, 㘟, 㘠, 㘡, 㘢, 㘣, 㘤, 㘥, 㘦, 㘧, 㘨, 㘩, 㘪, 㘫, 㘬, 㘭, 㘮, 㘯, 㘰, 㘱, 㘲, 㘳, 㘴, 㘵, 㘶, 㘷, 㘸, 㘹, 㘺, 㘻, 㘼, 㘽, 㘾, 㘿, 㙀, 㙁, 㙂, 㙃, 㙄, 㙅, 㙆, 㙇, 㙈, 㙉, 㙊, 㙋, 㙌, 㙍, 㙎, 㙏, 㙐, 㙑, 㙒, 㙓, 㙔, 㙕, 㙖, 㙗, 㙘, 㙙, 㙚, 㙛, 㙜, 㙝, 㙞, 㙟, 㙠, 㙡, 㙢, 㙣, 㙤, 㙥, 㙦, 㙧, 㙨, 㙩, 㙪, 㙫, 㙬, 㙭, 㙮, 㙯, 㙰, 㙱, 㙲, 㙳, 㙴, 㙵, 㙶, 㙷, 㙸, 㙹, 㙺, 㙻, 㙼, 㙽, 㙾, 㙿, 㚀, 㚁, 㚂, 㚃, 㚄, 㚅, 㚆, 㚇, 㚈, 㚉, 㚊, 㚋, 㚌, 㚍, 㚎, 㚏, 㚐, 㚑, 㚒, 㚓, 㚔, 㚕, 㚖, 㚗, 㚘, 㚙, 㚚, 㚛, 㚜, 㚝, 㚞, 㚟, 㚠, 㚡, 㚢, 㚣, 㚤, 㚥, 㚦, 㚧, 㚨, 㚩, 㚪

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①：日本遺産PR事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度：26,460千円	平成32年度：8,000千円	平成33年度：2,000千円
事業概要：	平成31年度：モバイルに対応したウェブサイト을日本語で作成する。 日本語版のパンフレットを作成し、空港・JR駅や各市の拠点施設で配布する。 PR動画（日本語・多言語）を制作し配信することで、国内外に日本遺産を情報発信するとともに、閲覧している層の調査を実施する。 平成32年度：マーケティング調査の結果を踏まえ、PR方法を検討するとともに、ウェブサイトの多言語化を行う。 東京・大阪・福岡等で開催されるイベント（対旅行社、一般客）へ出展するとともに雑誌等へ広告を出稿して、日本遺産登録をPRする。 平成33年度：ウェブサイトを改良し、地元団体等がコンテンツを発信できるようにする。 SNS等を利用した双方向の情報発信に取り組む。		
具体的な指標：	各市HPの観光関連ページのアクセス数の合計1,300,000回に「旅行年報2017」（（公財）日本交通公社「行ってみたい旅行タイプ：歴史・文化観光」）の割合（42%）を乗じた546,000回を基礎とし、6年間で18%上昇させる。		
目標値：	平成 31 年度	546,000 回	⇒ 平成 36 年度 644,000 回
事業②：日本遺産ガイド育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度：2,808千円	平成32年度：1,000千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成31年度：地元のみならず、日本遺産全体のガイドが可能となるマニュアル本を作成する。 平成32年度：日本遺産ガイド講習会を実施して、ガイドを育成する。 外国語案内ガイド（有料）の育成にも取り組む。 平成33年度：ガイドの活躍の場としてのツアーを企画し、ガイド力の向上に努める。		
具体的な指標：	ガイド育成講座の後年度活動者数を講座修了者の50%とする。		
目標値：	平成 31 年度	未実施 人	⇒ 平成 36 年度 修了者の50% 人
事業③：日本遺産ロゴマーク等作成事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度：1,728千円	平成32年度：1,500千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成31年度：日本遺産の統一ロゴマークや幟旗を作成し、事業推進に取り組む。 平成32年度：マーケティング調査の結果を踏まえ、日本遺産ブランドの焼酎やサムライグッズなどの土産物を開発する。 平成33年度：イベント等で開発商品の情報発信を図る。		
具体的な指標：	各市1件は商品開発を行う。		
目標値：	平成 31 年度	0 件	⇒ 平成 36 年度 9 件
事業④：地域文化継承事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度：千円	平成32年度：4,000千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成32年度：日本遺産研究事業の成果を踏まえ、学校の授業で活用するための日本遺産副読本を製作する。 日本遺産の出前講座を設け、学校等で実施する。 平成33年度：日本遺産について学んだ子どもたちによる日本遺産ガイドを実施する。		
具体的な指標：	地域の小中学生の日本遺産の認知度を平成31年度の認知度を基準として60%向上させる。		
目標値：	平成 31 年度	基準 %	⇒ 平成 36 年度 基準×1.6 %

（６）日本遺産魅力発信推進事業

事業⑤：	地域づくり参加促進事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度：	5,465千円	平成32年度：	1,000千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成31年度：地域の歴史・文化・伝統の良さを再確認するシンポジウムを開催する。 平成32年度：各地域の成功事例について共通理解を図るためのワークショップを開催する。 平成33年度：幅広い地域住民から地域活性化のための企画を募集する。				
具体的な指標：	平成31年度の調査と比較して、平成36年度の認知度を50%向上させる。				
目標値：	平成 31 年度	基準	%	⇒	平成 36 年度 基準×1.5 %
事業⑥：	日本遺産ツアー事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度：	千円	平成32年度：	1,500千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成32年度：マーケティング調査の結果を踏まえ、モデルルートを作成し、国内外の旅行業者等を対象に体験プログラムを取り入れた視察ツアーを実施し、更なる情報発信とモデルルートの磨き上げに努める。他地域の日本遺産認定地との周遊ルート構築の可能性を調査する。 地元市、保存会、観光協会、商店街等の理解と協力を得た上で、武家屋敷や、近隣観光施設の入館料が割引になり、地元飲食店や土産物屋の特典が付いた「麓巡り手形（仮称）」を作成し、販売する。 平成33年度：麓を歴史解説付きで巡る旅行業者等を対象にした日帰りバスツアーを実施し、麓の魅力を情報発信する。ツアーの際には地元のおもてなしが感じられる内容を盛り込み、地元の受入体制の整備と同時に、麓ファンとリピーターの発掘につなげる。				
具体的な指標：	各市 1 件以上の日本遺産に関する旅行商品を開発する。				
目標値：	平成 31 年度	0 件	⇒	平成 36 年度	9 件
事業⑦：	新かごしま加工品開発事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度：	千円	平成32年度：	1,000千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成32年度：マーケティング調査の結果を踏まえ、日本遺産と関連する鹿児島の特産品を活用した加工品を開発し、地元企業に提供するとともに、開発商品を採用した地元企業等を対象にサポーター企業の募集を行う。 各麓で実施する体験メニューを開発し、情報発信する。 平成33年度：イベント等で開発商品の情報発信を図る。				
具体的な指標：	各市 1 件以上の日本遺産に関する商品を開発する。				
目標値：	平成 31 年度	0 件	⇒	平成 36 年度	9 件
事業⑧：	マーケティング戦略事業				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度：	2,534千円	平成32年度：	1,000千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成31年度：本県日本遺産の構成文化財や町並、滞在時間等について、嗜好性を具体的に調査しターゲットを絞り込み戦略立案に役立てる。日本遺産認知度調査を実施する。 平成32年度：マーケティング調査を基に地域ブランド戦略及びマーケティング戦略を策定するとともに、インフルエンサー等を利用した情報発信を行う。 平成33年度：これまでの成果を測定し、戦略の修正を行う。				
具体的な指標：	参加各市の観光客入り込み数を 6 年間で18%増加させる。				
目標値：	平成 29 年度	20,277,525 人	⇒	平成 36 年度	23,900,000 人

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業⑨：	日本遺産研究事業				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度：	2,398千円	平成32年度：	1,000千円	平成33年度：1,000千円
事業概要：	平成31年度：文献等の調査を実施し、サブストーリーを抽出する。（～平成32年度） 平成32年度：抽出したサブストーリーをウェブサイトや日本遺産コーナーで情報発信する。 平成33年度：32年度までの調査結果に基づき、ストーリーを更に磨き上げる。				
具体的な指標：	参加各市の観光客入り込み数を6年間で18%増加させる。				
目標値：	平成 29 年度	20,277,525 人	⇒	平成 36 年度	23,900,000 人
事業⑩：	観光客受入体制整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度	
事業費：	平成31年度：	24,624千円	平成32年度：	10,000千円	平成33年度：
事業概要：	平成31年度：ストーリーを理解してもらうための案内板を設置する。（～平成32年度） 構成文化財等の多言語解説システムを導入する。 平成32年度：麓に隣接する資料館等に日本遺産コーナーを整備する。				
具体的な指標：	参加各市の観光客入り込み数を6年間で18%増加させる。				
目標値：	平成 29 年度	20,277,525 人	⇒	平成 36 年度	23,900,000 人

様式 4（別紙③）

（７）その他事業

事業①：	観光かごしま大キャンペーン推進事業			
実施主体：	観光かごしま大キャンペーン推進協議会	事業期間：	平成 7 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	本県を訪れる観光客の一層の増加を図るため、行政と関係団体、業界等で「観光かごしま大キャンペーン推進協議会」を組織し、効果的な観光広報宣伝施策を展開する。			
事業②：	国内誘客プロモーション事業			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	交通キャリアとタイアップし、大都市圏において観光素材のプロモーションを行う。			
事業③：	魅力ある観光地づくり事業			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 18 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	本県を訪れる観光客の受入体制の充実を図るため、景観・便益施設の整備や案内標識の整備を行う。			
事業④：	地域観光資源磨き上げ事業			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	各地域の観光資源の磨き上げを行い、体験型・着地型観光を推進するなど、地域の観光力をアップさせるための事業を展開する。			
事業⑤：	地域振興推進事業			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	県地域振興局・支庁が各地域固有の課題解決や地域振興に資する事業を実施する。			
事業⑥：	ガイド研修事業			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	県内各地域の一般の観光ガイド育成のための研修を行う。			
事業⑦：	鹿児島県観光連盟事業			
実施主体：	公益社団法人鹿児島県観光連盟	事業期間：	平成 4 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	県内観光地の保存及び開発並びに観光客誘致の広報宣伝を促進するとともに、他の産業との協調を保持して観光鹿児島の振興を図る。			
事業⑧：	直行便市場からの誘客強化			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	直行便が就航している韓国・中国・台湾・香港市場を対象に、SNSや映像・雑誌などメディアを活用した情報発信、旅行博覧会への出展、現地セールス、旅行会社の招請等、各種プロモーションを強化する。			
事業⑨：	戦略的市場からの誘客強化			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	直行便市場と並び戦略的に有望なシンガポール・タイ・ベトナム・欧米豪市場を対象に、SNSや映像・雑誌などのメディアを活用した情報発信、旅行博覧会への出展、現地セールス、旅行会社の招請等、各種プロモーションを強化する。			
事業⑩：	観光多言語ウェブサイトによる誘客強化			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	誘客力のある海外ウェブサイトの連携やコンテンツの充実など観光多言語ウェブサイトの再構築を行いつつ、情報発信を強化する。			

様式 4（別紙③）

（ 7 ） その他事業

事業⑪：	薩摩の小京都・知覧武家屋敷にぎわい創出事業			
実施主体：	南九州市（内閣府補助事業）	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	南九州市所有の知覧麓庭園をもつ西郷恵一郎邸において宿泊体験コミュニティカフェなどで使用できるように内装改修工事を実施する。			
事業⑫：	入来麓街なみ環境整備事業			
実施主体：	薩摩川内市（国土交通省補助事業）	事業期間：	平成 22 年度 ～ 平成 36 年度	
事業概要：	入来麓伝統的建造物群保存地区内における駐車場や観光拠点施設等の整備，道路舗装の改良等を行う。			
事業⑬：	加世田麓周辺地区街なみ環境整備事業			
実施主体：	南さつま市（国土交通省補助事業）	事業期間：	平成 25 年度 ～ 平成 34 年度	
事業概要：	麓周辺地区における歴史的街並みの整備（街かど広場整備・伝建予定地区以外の修景整備等）を行う。			
事業⑭：	南九州市知覧麓伝統的建造物群基盤強化事業			
実施主体：	南九州市（文化庁補助事業）	事業期間：	昭和 56 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	知覧麓伝統的建造物群保存地区内における修理・修景事業を実施する。			
事業⑮：	薩摩川内市入来麓伝統的建造物群基盤強化事業			
実施主体：	薩摩川内市（文化庁補助事業）	事業期間：	平成 17 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	入来麓伝統的建造物群保存地区内における修理・修景事業を実施する。			
事業⑯：	志布志城跡保存整備事業			
実施主体：	志布志市（文化庁補助事業）	事業期間：	平成 18 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	志布志城跡について，遺構の表示や展望所の整備，里山としての管理，斜面の崩落防止及び安全対策を行う。山城斜面の保護工事による史跡の保存と併せて史跡公園としての整備を進めることで見学者の増加を図る。			
事業⑰：	志布志麓庭園活用整備事業			
実施主体：	志布志市（文化庁補助事業）	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	平成19年に国指定となった志布志麓庭園の保存管理についての指針となる保存管理計画を策定し，計画的に整備を進め，庭園の活用・整備を図る。			
事業⑱：	トンボロ芸術村・ふれあい交流事業			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 8 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	甕島を題材とした写真，絵画，俳句，書道等の作品を島内外から公募し，入賞作品を街角ギャラリーで展示するほか，音楽による交流事業等を実施し，交流人口の増加と地域の芸術・文化の振興を図る。			
事業⑲：	観光牛車支援事業			
実施主体：	出水市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度	
事業概要：	牛車で出水麓武家屋敷群内を巡ることにより，日本遺産構成文化財のPR及び観光振興につなげる事業を支援する。			
事業⑳：	出水麓歴史館企画展事業			
実施主体：	出水市	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	近世の出水麓の歴史資料を中心に展示している出水麓歴史館において，出水の歴史・文化にちなんだ幅広いテーマで企画展事業に取り組む。			

様式 4（別紙③）

（ 7 ） その他事業

事業⑳：	Visit IZUMIサイン事業				
実施主体：	出水市	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 31 年度	
事業概要：	出水市内における看板標識の統一（含 麓地区）を図る。				
事業㉑：	シラス像パーク事業				
実施主体：	明治維新150周年記念イベントin出水実行委員会	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 30 年度	
事業概要：	観光客を呼び込むため、出水麓武家屋敷群内に明治維新の偉人をシラスで制作する。				
事業㉒：	たるみず日帰りバスツアー				
実施主体：	鹿児島県旅行業協同組合	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 30 年度	
事業概要：	垂水市の史跡や文化財等を見学し、地元産の食材を利用した昼食を取るバスツアーを実施する。日本遺産の構成文化財も対象に含まれる。年5回実施予定。				
事業㉓：	春を呼ぶ垂水土人形展				
実施主体：	垂水市観光協会	事業期間：	平成 25 年度	～ 平成 26 年度	
事業概要：	江戸時代は垂水麓に居住する武士達の内職としても作られていた垂水人形を、戦前より存在する旧家を会場として展示。垂水でも愛用されていた大島紬を着用したスタッフが対応し、垂水の歴史案内、垂水の郷土料理のふるまい等を行う。				
事業㉔：	サムライツーリズム				
実施主体：	株式会社薩摩川内市観光物産協会 外	事業期間：	平成 28 年度	～ 平成 29 年度	
事業概要：	入来麓伝統的建造物群保存地区における甲冑・着物の着付け体験や茶道体験等を実施する。				
事業㉕：	市指定文化財保護管理委託業務				
実施主体：	いちき串木野市	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 30 年度	
事業概要：	市の指定文化財であり、麓地区にある旧入来邸武家屋敷と古木の保護管理を委託する。				
事業㉖：	麓地区歴史的街並み形成検討事業				
実施主体：	いちき串木野市	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 30 年度	
事業概要：	麓周辺の街並み等の保存について講師を招いて検討会を開催する。				
事業㉗：	ウォーキング大会				
実施主体：	いちき串木野市上名地区まちづくり協議会	事業期間：	平成 27 年度	～ 平成 28 年度	
事業概要：	麓が含まれる上名地区内において地域活性と健康増進を目的としたウォーキング大会を行う。				
事業㉘：	ゴールデンシマツ				
実施主体：	いちき串木野市総合観光案内所	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 31 年度	
事業概要：	薩摩金山蔵において島津家久、豊久、戦国島津について、歴史講演会及び串木野坑道跡探訪などを行う。				
事業㉙：	南さつま「いろは」まごころ短歌大会				
実施主体：	南さつま市	事業期間：	平成 28 年度	～ 平成 29 年度	
事業概要：	日新公いろは歌を広めるとともに、短歌文化の創造を目的に、開催（28年度応募全国から約3万首）。表彰式及び「いにしへの道」加世田麓まち歩きを実施する。				

様式 4（別紙③）

（ 7 ） その他事業

事業⑳：	いにしへの道クリーン作戦			
実施主体：	南さつま市	事業期間：	平成 17 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	「島津日新公いろは歌」歌碑の並ぶ「いにしへの道」の清掃，益山用水路木柵化粧直し等を行う。			
事業㉑：	郷土資料館運営事業			
実施主体：	南さつま市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	加世田郷土資料館には島津忠良の資料を展示した「日新公室」がある。加世田鍛冶体験教室や史跡探訪を実施する。			
事業㉒：	加世田麓伝統的建造物群保存対策調査事業			
実施主体：	南さつま市	事業期間：	平成 24 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	加世田麓地区における武家住宅等の町並み保存を行う。			
事業㉓：	登録有形文化財公開活用事業			
実施主体：	南さつま市	事業期間：	平成 24 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	市が所有する武家住宅（旧鯉坂家住宅）の公開・活用事業を実施する。			
事業㉔：	南さつま市音声多言語案内システム業務委託			
実施主体：	南さつま市	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	携帯端末から市内 15 箇所の観光スポット情報にアクセスできる情報提供システムの維持管理を行う。「加世田麓の武家屋敷」や「竹田神社」を紹介する。			
事業㉕：	竹田神社夏祭り・いにしへの道ふれあい散策フェスタ			
実施主体：	実行委員会	事業期間：	平成 17 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	県指定無形民俗文化財「土踊」の奉納，県指定有形無形文化財「加世田の水車カラクリ」の上演，その他歴史クイズ・スタンプラリー，武家住宅公開などを実施する。			
事業㉖：	加世田歳の市・加世田麓まち歩き			
実施主体：	実行委員会	事業期間：	平成 17 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	加世田歳の市と同日に加世田麓地区のまち歩きを実施する。			
事業㉗：	総合観光案内事業			
実施主体：	志布志市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	志布志市を訪れたお客様や市民に，観光情報や特産品を紹介し，魅力を伝えることにより観光地への誘客や特産品の販売促進を図る。（委託先：志布志市観光特産品協会）			
事業㉘：	志布志の魅力大キャンペーン事業			
実施主体：	志布志市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	志布志市の「食」や特産品，イベント等を季節ごとに情報発信を行い，観光客の誘致を行う。（委託先：志布志市観光特産品協会）			
事業㉙：	志布志市観光物産振興事業			
実施主体：	志布志市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度	
事業概要：	市内の観光業・特産品関係業者の総合的な改善発展を図り，健全な地域経済の発展に寄与するとともに，民間主導の柔軟でフットワークの軽い観光振興を推進する。（補助事業であり，補助団体は志布志市観光特産品協会）			

（ 7 ） その他事業

事業④①：	亀甲城跡整備事業			
実施主体：	南九州市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	構成資産の一つである，亀甲城跡の遊歩道や頂上広場の整備，多国語案内板を設置する。			
事業④②：	知覧麓伝建地区公開施設等管理費			
実施主体：	南九州市	事業期間：	昭和 56 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	重伝建地区内に所在する知覧型二ツ屋民家や市所有地の適正な維持管理や公開活用を行う。			
事業④③：	史跡等保存管理事業			
実施主体：	南九州市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	伝建地区をはじめ国指定知覧城跡など市内全般にわたる史跡等の適正な維持管理を行う。			
事業④④：	文化財等活用整備事業			
実施主体：	南九州市	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	地域推進事業（鹿児島県）の額娃城跡・矢筈岳周辺トレッキング環境整備事業に伴うもので，麓の構成資産の一つ知覧城跡をはじめ市内山城のバスツアーと案内説明資料の作成を行う。			
事業④⑤：	ミュージアム知覧管理運営事業こども学芸員活動及び企画展			
実施主体：	南九州市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	ミュージアム知覧では年4回の企画展開催に伴う「南薩の麓と武家集落」展の開催をはじめ子供学芸員活動において，城と麓の街歩きを開催する。			
事業④⑥：	水車からくり保存事業			
実施主体：	水車からくり保存会	事業期間：	昭和 56 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	麓の構成資産の一つ「知覧水車からくり」の人形制作，背景画作成等に伴う上演及び水車の修繕・補修を行う。			
事業④⑦：	薩南文化講演会			
実施主体：	南九州市	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	年に 4 回，麓地区や他の文化財に関連する一般対象の講演会を開催する。			
事業④⑧：	お試し居住			
実施主体：	南九州市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	麓の民家の内装を改装し，お試し居住用の住居として使用する。			
事業④⑨：	国指定文化財等事業費補助金			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	昭和 63 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	国指定の文化財の修復等に対して，県が国の補助に上乗せして補助を行う。			
事業④⑩：	県指定文化財保護事業費補助金			
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	昭和 30 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	県指定の文化財の修復等に対して，県が補助を行う。			

様式 4（別紙③）

（７）その他事業

事業・：	鶴丸城御楼門復元支援事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 26 年度	～ 平成 年度
事業概要：	鶴丸城御楼門の復元への取組に対し，県及び市で支援を行うことにより，歴史・文化ゾーンの魅力向上を図る。			
事業・：	鹿児島ぶらりまち歩き推進事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 20 年度	～ 平成 年度
事業概要：	ボランティアガイドの案内を聞きながら，気軽に鹿児島の歴史・文化を楽しめる「鹿児島ぶらりまち歩き」や，主要観光地点等で観光案内を行う。			
事業・：	観光案内板等整備事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 55 年度	～ 平成 年度
事業概要：	市内観光地・施設や道路の要所に観光案内板を整備し，国内外からの観光客の利便性を向上する。			
事業・：	観光施設維持管理事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 55 年度	～ 平成 年度
事業概要：	史跡・銅像などのライトアップ，歓迎サインタワーの維持管理，その他観光施設等の維持管理を行う。			
事業・：	カゴシマシティビュー事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 5 年度	～ 平成 年度
事業概要：	観光地周遊バスであるカゴシマシティビューの運行を充実し，観光客の利便性・快適性の向上を図る。			
事業・：	“世界を視野に”外国人観光客誘致宣伝事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 18 年度	～ 平成 年度
事業概要：	東アジア及び東南アジアをメインターゲットとした外国人観光客の誘致促進を図るため，各市場の動向やニーズに合わせた継続的な観光プロモーション等を実施する。			
事業・：	外国人観光客受入事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 57 年度	～ 平成 年度
事業概要：	外国人観光客の満足度を高めるため，外国人観光客の視点に立ったきめ細やかな受入体制の充実を図る。			
事業・：	クルーズ船誘致・受入事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 57 年度	～ 平成 年度
事業概要：	大型クルーズ船の誘致・受入体制の整備を促進するため，官民一体となった観光案内等の充実を図る。			
事業・：	国内観光客誘致宣伝事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 59 年度	～ 平成 年度
事業概要：	国内観光客の誘致促進のため，主要都市での街頭宣伝，マスコミや関係団体等の訪問など，本市観光のPRを実施する。			
事業・：	プロモーション推進事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 19 年度	～ 平成 年度
事業概要：	鹿児島の魅力を積極的に国内各地に発信し，大会・会議・イベントの誘致，特産品・農産品の販路拡大につながるようセールスやPR活動を実施する。			

様式 4（別紙③）

（７）その他事業

事業・：	メディア等活用宣伝事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 55 年度	～ 平成 年度
事業概要：	本市観光の魅力について、テレビCMや番組、雑誌、ウェブ等を活用したメディアミックスによるPRを行うとともに、観光ホームページによる情報発信を行う。			
事業・：	修学旅行誘致事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 26 年度	～ 平成 年度
事業概要：	修学旅行誘致を促進するため、修学旅行の自主研修で利用できる修学旅行マップ・ガイドを作成する。			
事業・：	鹿児島市版DMOの推進			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 年度
事業概要：	鹿児島市版DMOの設立に向けて、鹿児島観光コンベンション協会の体制の充実・強化を支援する。			
事業・：	観光事業創出支援事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 年度
事業概要：	「稼ぐ観光」の実現に向け、先進的な観光の取組を行う民間事業者の事業展開を支援する。			
事業・：	次世代につなぐ景観誘導事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 21 年度	～ 平成 年度
事業概要：	市民・事業者等の協力のもと、愛着と誇りが持てる景観形成を推進する。			
事業・：	城山公園自然の森再生事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 21 年度	～ 平成 年度
事業概要：	指定文化財としての普遍的価値を尊重しながら、貴重な緑を次世代に継承するため、城山公園の園路整備等を行う。			
事業・：	文化薫る地域の魅力づくりプラン推進事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 24 年度	～ 平成 33 年度
事業概要：	文化薫る地域の魅力づくりプランに基づき、美術、音楽、伝統芸能などを含めた幅広い分野の文化資源を生かした様々なイベント等を実施することにより元気な地域づくり・人づくりを推進する。			
事業・：	文化財保護管理事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 37 年度	～ 平成 年度
事業概要：	文化財の保護活用及び公開を行うことにより、文化財愛護思想の普及を図る。			
事業・：	ふるさと文化財発見事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 18 年度	～ 平成 年度
事業概要：	文化財をホームページや刊行物を通して情報発信し、市民に幅広く周知・広報する。			
事業・：	美術館における外国人観光客利用促進事業			
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 年度
事業概要：	多言語に対応した施設環境の整備など外国人観光客の受入体制を充実し、施設の利用促進を図る。			

様式 4（別紙③）

（7）その他事業

事業・：	美術館施設整備事業		
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 23 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	歴史・文化ゾーンにおける観光資源である美術館の施設設備等を整備し，良好な展示環境や観覧者の安全確保を図る。		
事業・：	美術館企画展等の開催		
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	昭和 60 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	歴史・文化ゾーンにおける観光資源である美術館において，特別企画展及び小企画展等を開催し，郷土や国内外の優れた美術品を展示する。		
事業・：	近代文学館管理運営事業		
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 9 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	かごしま近代文学館の管理運営を指定管理者に委託し，効率的で積極的な運営を図る。		
事業・：	メルヘン館管理運営事業		
実施主体：	鹿児島市	事業期間：	平成 9 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	かごしまメルヘン館の管理運営を指定管理者に委託し，効率的で積極的な運営を図る。		
事業・：	かごしまの日本遺産等魅力発信事業		
実施主体：	鹿児島県	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	日本遺産に取り組む協議会に対して負担金を拠出して，協議会の安定的な運営を支える。（各市も負担金を拠出する）		
事業・：	文化財保護管理事業		
実施主体：	始良市	事業期間：	平成 22 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	文化財の保護活用及び公開を行うことにより，文化財愛護思想の普及を図る。		
事業・：	蒲生のクス天然記念物再生事業		
実施主体：	始良市	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	国特別天然記念物「蒲生のクス」の樹勢回復と継続的な維持管理を図る。		
事業・：			
実施主体：	：	事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			
事業・：			
実施主体：	：	事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			
事業・：			
実施主体：	：	事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			